

甲府市上下水道事業経営戦略

第5次戦略推進計画

(2022年度～2024年度)

【下水道事業】

令和5年度評価結果（対象：令和4年度）

甲府市上下水道事業経営戦略 第5次戦略推進計画 (下水道事業) 事業評価総括表
 (4つの経営方針のもと、11施策、34事業) 対象：令和4(2022)年度

経営方針	施策	事業番号	事業名	担当課	事業評価	施策総合評価	
1 災害に強く快適な下水道(安全・強靱)	(1) 危機管理対策の強化	1	総合的危機管理対策の強化	総務課	B	B	
		2	処理場等施設耐水化事業	浄化センター	—		
	(2) 管路・施設の耐震化の推進	3	下水道総合地震対策計画策定事業	計画課	—	B	
		4	下水道地震対策事業(管路)※	下水道課	B		
		5	下水道地震対策事業(処理場・ポンプ場)※	浄化センター	B		
	(3) 汚水管きよの整備	6	下水道整備計画策定事業	計画課	—	B	
		7	汚水管きよ整備事業※	下水道課(計画課)	B		
	(4) 公共用水域の水質保全の推進	8	下水道接続促進事業※	給排水課	C+	B	
		9	雨水管きよ整備事業(浸水対策)	下水道課	B		
		10	流入汚水の水質保全対策	浄化センター	B		
		11	放流水の水質保全対策	浄化センター	B		
2 将来に繋げる下水道(持続)	(1) 経営基盤の強化	12	企業債依存度の縮減と資金調達手法の検討	経営企画課	B	B	
		13	適正な下水道使用料の継続的な検討	経営企画課	B		
		14	排水設備台帳システムの整備	給排水課	B		
		15	下水道台帳管理システムデータ整備	計画課	B		
		16	下水道使用料の収納率向上、滞納整理の強化	営業課	B		
		17	民間活力の活用推進(営業部門)	営業課	B		
		18	民間活力の活用推進(排水施設等)	下水道課	B		
		19	民間活力の活用推進(水処理施設等)	浄化センター	B		
		20	効率的な事務の推進	総務課	B		
		21	下水道事業の広域化・共同化の推進	経営企画課(計画課)	B		
	(2) 効果的な改築	22	上下水道事業アセットマネジメントシステムの運用等	計画課(下水道課、浄化センター)	B	B	
		23	管路施設の調査及び改築事業※	下水道課	C+		
		24	マンホールポンプ施設の調査及び改築事業	下水道課	B		
		25	処理場等施設の調査及び改築事業※	浄化センター	C+		
	(3) 有収率の向上	26	正確な汚水排水量の把握	営業課	B	B	
		27	浸入水防止対策(管路)	下水道課	B		
		28	浸入水防止対策(誤接続)	給排水課	B		
	(4) 技術・経営ノウハウの継承	29	人材育成、技術・経営ノウハウの継承	総務課	B	B	
	3 お客様満足度の高い下水道(信頼)	(1) 親しみやすく、わかりやすい情報の提供	30	戦略的PR活動の展開	経営企画課	B	B
			31	情報共有、協働による相互理解を深めた事業運営(広報等)	経営企画課	B	
		(2) お客様の利便性の向上	32	顧客満足度向上事業	営業課	B	B
4 環境に配慮した下水道(環境)	(1) 環境保全への貢献	33	環境・エネルギー利活用事業(本局)	総務課	B	B	
		34	環境・エネルギー利活用事業(浄化センター)	浄化センター(計画課)	B		

※第六次甲府市総合計画の実施計画事業

事業評価	A：拡大、B：継続推進、C+：積極的見直し、C-：一部改善、D+：統廃合、D-：縮小、E：休止・廃止、F：完了
施策総合評価	A：大きな効果を挙げている、B：効果を挙げている、C：あまり効果を挙げられていない、D：効果が挙げられていない 事業評価と重要業務指標(KPI)の状況を勘案し、総合的に評価

第5次戦略推進計画 進捗管理シート（最終）

下水道事業

事業番号1 総合的危機管理対策の強化

対象：令和4（2022）年度

担当課	全 課（総務課）	担当課長	渡辺 洋司				
経営方針	1 災害に強く快適な下水道（安全・強靱）	施 策	（1）危機管理対策の強化				
目 的	日常の施設事故から大規模自然災害等の発生時に想定されるあらゆる危機への対策を講じるため、総合的に危機管理対策の強化を図ります。						
事業の概要	「危機管理指針」や「甲府市上下水道事業業務継続計画（BCP）」、各種マニュアル等については、「甲府市地域防災計画」等との整合を図る中で、随時見直しを行います。また、想定されるあらゆる危機を特定・分析し、個別対応マニュアル等の策定・見直し、下水道資機材等の確保、実践的な災害対応訓練を実施します。						
現状と課題	山梨県、甲府市、日本下水道協会及び関係団体などと連携した被災の経過や状況に応じた実践的かつ効果的な災害対応訓練等の実施や資機材の計画的な整備により災害対応能力の向上を継続的に図っていくことが重要です。また、これまでの地震災害に加え風水害や感染症といった事象に対応するために、令和2（2020）年度に新たに水道事業の業務継続と一体化し策定した業務遂行の基本的指針となる「甲府市上下水道事業業務継続計画（BCP）」を適宜見直し、計画全体のレベルアップを図り、より効果的な計画として維持継続することが必要です。						
事業計画	名 称	説 明	年 度	2022	2023	2024	
	災害対応訓練	実践的かつ効果的な訓練の実施					
	計画・マニュアル等随時見直し	必要に応じ随時見直し					
	応急下水道資機材等整備	災害時に必要な応急資機材の計画的整備					
業務指標	名 称	目標値に対する取組状況等	目標値	5	5	5	
	災害対策訓練実施回数（回） ※重要業務指標	実績	<ul style="list-style-type: none"> ・標的型メール訓練（6月） ・情報伝達訓練（9月） ・住吉中継ポンプ場BCP訓練（9月） ・総務班BCP訓練（10月） ・甲府市総合防災訓練（11月） ・BCP仮排水訓練（11月） ・浄化センター防火・地震災害総合訓練（2月） 	実績	7	実績評価（担当）	T5
			2021年度末実績（参考）	6			
事業費予算額（千円）				1,479			
事業費決算額（千円）				1,195			
事業評価（担当）					B		
取組状況及び今後の展開（担当）	継続的に災害対策訓練を実施することで、危機管理への対応力の強化に努める。						
事業評価（推進委員会）					B		
推進委員会の意見等	危機管理対策の強化については、BCPで策定した各班の非常時対応計画のより詳細なシナリオに基づいた訓練を実施し、各班における訓練結果の検証・改善を行うことで、より実効性の高いものとしていくこと。						

業務指標評価 T5：目標達成率110%以上、T4：90%以上110%未満、T3：70%以上90%未満、T2：50%以上70%未満、T1：50%未満

事業評価 A：拡大、B：継続推進、C+：積極の見直し、C-：一部改善、D+：統廃合、D-：縮小、E：休止・廃止、F：完了

第5次戦略推進計画 進捗管理シート（最終）

下水道事業

事業番号2 処理場等施設耐水化事業

対象：令和4（2022）年度

担当課	浄化センター		担当課長	石川 泰明		
経営方針	1 災害に強く快適な下水道（安全・強靱）		施策	（1）危機管理対策の強化		
目的	河川氾濫等による浸水に対して浄化センター、住吉中継ポンプ場等の機能不全を防止するため必要な措置を講じます。					
事業の概要	浄化センター、住吉中継ポンプ場等敷地内の浸水危険箇所の調査及び浸水対策工事等を行います。					
現状と課題	浄化センター及び住吉中継ポンプ場等の下水道施設は、洪水ハザードマップで浸水の恐れがある区域内に位置することから、施設の浸水防止や機能保全を図ることが課題となっています。 また、耐水化・防水化には莫大な費用が掛かることも予想されることから、国の補助金の動向等についても注視する中で事業を推進します。					
事業計画	名称	説明	年度	2022	2023	2024
	処理場等施設耐水化事業		耐水化工事の実施設計・施工			
業務指標	名称	目標値に対する取組状況等	目標値	—	実施	実施
	耐水化計画の実施	実績	実績	—	実績評価（担当）	—
			2021年度末実績（参考）	—		
事業費予算額（千円）				—		
事業費決算額（千円）				—		
事業評価（担当）					—	
取組状況及び今後の展開（担当）		—				
事業評価（推進委員会）					—	
推進委員会の意見等		—				

業務指標評価 T5：目標達成率110%以上、T4：90%以上110%未満、T3：70%以上90%未満、T2：50%以上70%未満、T1：50%未満

事業評価 A：拡大、B：継続推進、C+：積極的見直し、C-：一部改善、D+：統廃合、D-：縮小、E：休止・廃止、F：完了

第5次戦略推進計画 進捗管理シート（最終）

下水道事業

事業番号3 下水道総合地震対策計画策定事業

対象：令和4（2022）年度

担当課	計画課		担当課長	照沼 昇		
経営方針	1 災害に強く快適な下水道（安全・強靱）		施策	(2) 管路・施設の耐震化の推進		
目的	下水道が有する汚水の収集・処理といった機能を平常時はもとより、大規模災害（地震）時においても強くしなやかに発揮し、持続的に提供することを通じ、市民の健康・生命・財産及び経済活動を保護・保全する強靱な社会の構築に貢献します。					
事業の概要	重要な施設（管路施設、処理場、ポンプ場）の耐震化やマンホールトイレ設置などの減災対策を実施し、市民生活への影響を最小化するための総合地震対策計画を策定します。					
現状と課題	関連計画であるストックマネジメント計画に基づく改築事業との調整を十分に図り、下水道施設の耐震化をさらに効率的かつ効果的に進める計画策定に努めます。					
事業計画	名称	説明	年度	2022	2023	2024
	甲府市下水道総合地震対策計画	<ul style="list-style-type: none"> ・防災計画として、管路施設における重要な幹線の耐震診断及び耐震補強計画を策定 ・処理場・ポンプ場については、施設の耐震診断及び耐震補強計画を策定 ・減災計画としては、マンホールトイレ設置計画の策定 				
業務指標	名称	目標値に対する取組状況等	目標値	—	策定	—
	総合地震対策計画	実績	実績	—	実績評価（担当）	—
			2021年度末実績（参考）		—	
事業費予算額（千円）				—		
事業費決算額（千円）				—		
事業評価（担当）					—	
取組状況及び今後の展開（担当）			—			
事業評価（推進委員会）					—	
推進委員会の意見等			—			

業務指標評価 T5：目標達成率110%以上、T4：90%以上110%未満、T3：70%以上90%未満、T2：50%以上70%未満、T1：50%未満

事業評価 A：拡大、B：継続推進、C+：積極的見直し、C-：一部改善、D+：統廃合、D-：縮小、E：休止・廃止、F：完了

第5次戦略推進計画 進捗管理シート（最終）

下水道事業

事業番号4 下水道地震対策事業（管路）（第六次甲府市総合計画実施計画 事業番号上下-11 2-1）

対象：令和4（2022）年度

担当課	下水道課	担当課長	向井 一哲			
経営方針	1 災害に強く快適な下水道（安全・強靱）	施策	(2) 管路・施設の耐震化の推進			
目的	防災・減災両面からの対策を行い、地震に対する下水道施設の安全度を高めるとともに、下水道が有する機能を確保するため、管路（既設）の耐震化を順次推進します。					
事業の概要	地震発生時に管路施設が有すべき最低限の機能を確保するため、主要な防災拠点からの排水を受ける管路施設の流下機能の確保及び緊急輸送路等における人孔の浮上など交通障害の防止による防災対策と、指定避難所等へのマンホールトイレ整備による減災対策を行います。					
現状と課題	管路施設の耐震性を確保することを目的として、「下水道総合地震対策計画」により継続的に事業を推進していく必要があります。					
事業計画	名称	説明	年度	2022	2023	2024
	管路の耐震化（管更生及び浮上防止対策等）	「下水道総合地震対策計画」（5か年計画：令和元（2019）～令和5（2023）年度 令和6（2024）～令和10（2028）年度）に基づき実施				
	マンホールトイレの整備					
業務指標	名称	目標値に対する取組状況等	目標値	2,600	2,500	—
	管路耐震化延長（m）	実績	実績	2,681	実績評価（担当）	T4
			2021年度末実績（参考）	2,535		
	名称	目標値に対する取組状況等	目標値	4	4	—
マンホールトイレ設置箇所数（箇所）	実績	実績	4	実績評価（担当）	T4	
		2021年度末実績（参考）	4			
事業費予算額（千円）				250,198		
事業費決算額（千円）				144,073		
事業評価（担当）					B	
取組状況及び今後の展開（担当）	「甲府市下水道総合地震対策計画」（2019～2023年度）に基づき、計画的に防災・減災対策に取り組んでいる。今後は、「甲府市下水道総合地震対策計画」（2024～2028年度）との整合を図る中で、着実な事業推進を図っていく。					
事業評価（推進委員会）					B	
推進委員会の意見等	「甲府市下水道総合地震対策計画」に基づき、継続して事業を推進すること。					

業務指標評価 T5：目標達成率110%以上、T4：90%以上110%未満、T3：70%以上90%未満、T2：50%以上70%未満、T1：50%未満

事業評価 A：拡大、B：継続推進、C+：積極的見直し、C-：一部改善、D+：統廃合、D-：縮小、E：休止・廃止、F：完了

第5次戦略推進計画 進捗管理シート（最終）

下水道事業

事業番号5 下水道地震対策事業（処理場・ポンプ場）（第六次甲府市総合計画
実施計画 事業番号 上下-11 2-2）

対象：令和4（2022）年度

担当課	浄化センター		担当課長	石川 泰明		
経営方針	1 災害に強く快適な下水道（安全・強靱）		施策	（2）管路・施設の耐震化の推進		
目的	地震に対する下水道施設の耐震性を高め、市民生活への影響を最小化できるよう処理場・ポンプ場の耐震化を推進します。					
事業の概要	「下水道総合地震対策計画」において設定した優先度に基づき、施設の耐震診断及び耐震補強を計画的に行います。					
現状と課題	全87の土木・建築施設を優先度の高い順に緊急、中期、長期の三種類に分類しており、その内の緊急（人命、揚排水機能の確保）について対象施設の耐震診断を終えたところ、全ての施設で耐震補強が必要という結果となりました。このことから、耐震化実施設計、耐震化工事を速やかに実施しながら、中期、長期の対象施設についても耐震診断等を進め、耐震化を図っていく必要があります。					
事業計画	名称	説明	年度	2022	2023	2024
	耐震診断	総合地震対策に基づき、耐震診断・実施設計・耐震補強工事を実施				
	耐震化実施設計					
	耐震工事					
業務指標	名称	目標値に対する取組状況等	目標値	32	33	33
	耐震化済分類施設箇所数（箇所）	実績 浄化センター最終沈殿池1・2・3系列の土木部分（躯体・杭）と、住吉中継ポンプ場塩素混和池の建築部分の耐震診断を行った結果、耐震補強工事が必要ないことを確認した。 87施設中36施設の耐震化が完了した。	実績	36	実績評価（担当）	T4
			2021年度末実績（参考）	29		
	名称	目標値に対する取組状況等	目標値	36.78	37.93	37.93
処理場等施設耐震化率（%） ※重要業務指標	実績 浄化センターは最終沈殿池1・2・3系列の土木部分（躯体・杭）と住吉中継ポンプ場塩素混和池の（建築）の耐震性を確認したため、87施設中36施設の耐震化が完了した。	実績	41.38	実績評価（担当）	T4	
		2021年度末実績（参考）	33.33			
事業費予算額（千円）				274,437		
事業費決算額（千円）				106,692		
事業評価（担当）					B	
取組状況及び今後の展開（担当）	「甲府市下水道総合地震対策計画」（2019～2023年度）に基づき、計画的に防災・減災対策に取り組んでいる。今後は、「甲府市下水道総合地震対策計画」（2024～2028年度）との整合を図る中で、着実な事業推進を図っていく。					
事業評価（推進委員会）					B	
推進委員会の意見等	「甲府市下水道総合地震対策計画」に基づき、継続して事業を推進すること。					

業務指標評価 T5：目標達成率110%以上、T4：90%以上110%未満、T3：70%以上90%未満、T2：50%以上70%未満、T1：50%未満

事業評価 A：拡大、B：継続推進、C+：積極的見直し、C-：一部改善、D+：統廃合、D-：縮小、E：休止・廃止、F：完了

第5次戦略推進計画 進捗管理シート（最終）

下水道事業

事業番号6 下水道整備計画策定事業

対象：令和4（2022）年度

担当課	計画課	担当課長	照沼 昇			
経営方針	1 災害に強く快適な下水道（安全・強靱）	施策	（3）汚水管きよの整備			
目的	建設から管理運営の時代に移行していく中で、下水道事業を取り巻く社会情勢の変化、将来の人口減少や財政状況等に対応した下水道事業の基本計画を定期的に見直し、実効性のある事業を効率的に実施する必要があります。汚水処理の適正化を推進することにより、都市の健全な発達及び公衆衛生の向上に寄与し、併せて公共用水域の水質の保全に資することを目的としています。					
事業の概要	下水道計画の基本事項、算定条件、手法及び事業効率などを整理し、下水道事業を長年にわたり安定的に運営していただくための最適な「区域計画」と、効率的な「施設計画」を設定することを目的とした基本計画の見直しを行います。また、財政、執行能力等を考慮した整備可能な内容について優先度の高い区域における概ね5年から7年程度の事業計画を策定します。					
現状と課題	汚水処理を所管する3省（国土交通省、農林水産省、環境省）が連携して示した汚水処理10年概成の方針に基づき策定された「アクションプラン」を基本に整備計画を策定しますが、下水道事業が抱える課題は社会情勢、財政、周辺環境及び上位計画との整合性など多岐にわたる諸条件に影響されるため、これら課題を的確に捉えたいうで適切に事業計画の見直しを行う必要があります。					
事業計画	名称	説明	年度	2022	2023	2024
	甲府市公共下水道基本計画の見直し	最適な「区域計画」と、効率的な「施設計画」を設定するための基本計画の見直し				
	甲府市公共下水道事業計画の策定	拡大区域を編入するための事業計画の変更				
業務指標	名称	目標値に対する取組状況等	目標値	—	—	策定
	計画策定	実績	実績	—	実績評価（担当）	—
			2021年度末実績（参考）		—	
事業費予算額（千円）				—		
事業費決算額（千円）				—		
事業評価（担当）					—	
取組状況及び今後の展開（担当）		—				
事業評価（推進委員会）					—	
推進委員会の意見等		—				

業務指標評価 T5：目標達成率110%以上、T4：90%以上110%未満、T3：70%以上90%未満、T2：50%以上70%未満、T1：50%未満

事業評価 A：拡大、B：継続推進、C+：積極の見直し、C-：一部改善、D+：統廃合、D-：縮小、E：休止・廃止、F：完了

第5次戦略推進計画 進捗管理シート（最終）

下水道事業

事業番号7 汚水管きよ整備事業（第六次甲府市総合計画実施計画 事業番号 上下-9）

対象：令和4（2022）年度

担当課	計画課・下水道課		担当課長	照沼 昇・向井 一哲		
経営方針	1 災害に強く快適な下水道（安全・強靱）		施策	（3）汚水管きよの整備		
目的	下水道の整備を推進し、都市の健全な発達及び公衆衛生の向上に寄与し、併せて公共用水域の水質の保全を図ります。					
事業の概要	市街化区域については、未整備箇所の解消を図ります。また、市街化調整区域と中道地区の整備については、年次計画に基づき整備を図ります。					
現状と課題	市街化区域の汚水管きよ整備については、区域内に点在する未整備箇所の要因を分析し整備を行います。市街化調整区域の整備については、北部地域の地形や新山梨環状道路北部区間の進捗等に応じて整備を進める必要があります。中道地区については、市街化調整区域と同様に特定環境保全公共下水道事業により、着実に整備を行います。					
事業計画	名称	説明	年度	2022	2023	2024
	市街化区域の汚水管きよ整備	区域内に点在する未整備箇所の解消				
	市街化調整区域の汚水管きよ整備	北部地域等の年次計画に基づき整備を推進				
	中道地区の汚水管きよ整備	年次計画に基づき整備を推進				
業務指標	名称	目標値に対する取組状況等	目標値	1,300	1,450	1,450
	整備延長（m）	実績	実績	2,305	実績評価（担当）	T5
		市街化区域、市街化調整区域及び中道地区において、合計2,305m（17件）の工事が完了した。	2021年度末実績（参考）	2,276		
	名称	目標値に対する取組状況等	目標値	96.82	96.86	96.89
普及率（%）※重要業務指標	実績	実績	97.04	実績評価（担当）	T4	
	$\frac{\text{処理区域人口 } 180,155}{\text{行政区域人口 } 185,651} \times 100$	2021年度末実績（参考）	96.96			
事業費予算額（千円）				505,166		
事業費決算額（千円）				366,123		
事業評価（担当）					B	
取組状況及び今後の展開（担当）	市街化区域については、未整備箇所となった要因を分析する中で、整備の推進を図る。また、市街化調整区域や中道地区については、既存集落の生活環境を保全するため、今後も着実な整備に努める。					
事業評価（推進委員会）					B	
推進委員会の意見等	計画に基づいて着実に整備を推進し、都市の健全な発展及び公衆衛生の向上とともに、公共用水域の水質保全に努めること。					

業務指標評価 T5：目標達成率110%以上、T4：90%以上110%未満、T3：70%以上90%未満、T2：50%以上70%未満、T1：50%未満

事業評価 A：拡大、B：継続推進、C+：積極的見直し、C-：一部改善、D+：統廃合、D-：縮小、E：休止・廃止、F：完了

第5次戦略推進計画 進捗管理シート（最終）

下水道事業

事業番号8 下水道接続促進事業（第六次甲府市総合計画実施計画 事業番号 上下-10）

対象：令和4（2022）年度

担当課	給排水課		担当課長	今井 洋和			
経営方針	1 災害に強く快適な下水道（安全・強靱）		施策	（4）公共用水域の水質保全の推進			
目的	下水道供用開始区域内において下水道への早期接続を促進するとともに、下水道未接続家屋の解消に努め、生活排水による河川等の汚染を抑制し、公共用水域の環境保全を推進します。						
事業の概要	「公共下水道接続促進行動計画」に基づき、下水道未接続家屋の所有者に対しては、通常訪問（平日）及び休日や夜間を利用した積極的な訪問を行う中で、下水道の必要性を説明するとともに啓発用の文書を配付して普及活動を行います。また、水洗便所改造資金貸付制度や下水道接続のお願い等を広報誌に掲載する中で接続促進のPRを行います。なお、9月10日「下水道の日」の関連事業として、街頭キャンペーン「下水道何でも相談所」を開設し下水道事業への関心及び理解を深めます。						
現状と課題	甲府市東部地域の下水道布設工事が終了し、それに伴い供用開始件数が減少する中で、下水道の普及率は96%、水洗化率98%と概ね高水準ですが、未接続家屋が2%程度存在します。この未接続家屋における理由は、大きく分けると短期間で解決できるもの、長期間若しくは解決の目途が立たないものに分類され将来的にも接続できない家屋への対応が課題であることから、更なる経済的支援や技術的支援など接続に向けた対策が重要となります。						
事業計画	名称	説明		年度	2022	2023	2024
	下水道接続促進	「下水道接続促進行動計画」に基づく訪問指導等の啓発活動、また、下水道の日の「下水道何でも相談所」開設					
	貸付金等の支援対策の充実	貸付金制度や融資あっせん制度による接続支援の充実					
業務指標	名称	目標値に対する取組状況等		目標値	3,500	3,400	3,300
	未接続家屋訪問件数（件）	実績	すべての未接続対象家屋への継続的な個別訪問を実施するなかで、それぞれの未接続理由に沿った指導・勧奨を行った。	実績	3,281	実績評価（担当）	T4
				2021年度末実績（参考）	3,355		
	名称	目標値に対する取組状況等		目標値	190	180	170
下水道接続件数（件）	実績	主要な下水道布設工事の終了に伴い新規供用開始数が減少する中で、対象家屋ごとの未接続理由に沿った指導・助言等により接続促進に努めた。	実績	112	実績評価（担当）	T2	
			2021年度末実績（参考）	148			
事業費予算額（千円）				7,772			
事業費決算額（千円）				28			
事業評価（担当）						C+	
取組状況及び今後の展開（担当）	長引くコロナ禍の影響により、訪問指導や啓発イベントの開催を制限せざるを得ない状況であった。今後は、接続までに長期間を要する案件について、対象者の実情に沿った指導・勧奨を継続するとともに、有効な方策等についても調査研究を行い、接続促進に努めていく。						
事業評価（推進委員会）						C+	
推進委員会の意見等	今後の事業推進においては、早期接続が困難な案件へのアプローチが重要である。対象者ごとのきめ細かな対応に尽力するとともに、意識啓発につながる広報企画等についても検討を重ね、引き続き接続促進に努めること。						

業務指標評価 T5：目標達成率110%以上、T4：90%以上110%未満、T3：70%以上90%未満、T2：50%以上70%未満、T1：50%未満

事業評価 A：拡大、B：継続推進、C+：積極的見直し、C-：一部改善、D+：統廃合、D-：縮小、E：休止・廃止、F：完了

第5次戦略推進計画 進捗管理シート（最終）

下水道事業

事業番号9 雨水管きょ整備事業（浸水対策）

対象：令和4（2022）年度

担当課	下水道課		担当課長	向井 一哲		
経営方針	1 災害に強く快適な下水道（安全・強靱）		施策	（4）公共用水域の水質保全の推進		
目的	市民の生命と財産を守り、安全・安心のまちづくりを推進するため、市街地の浸水防止対策を推進し、中長期的に雨水管きょの整備を図ります。					
事業の概要	通常整備については、地域要望等に応じて整備を行います。雨水管きょ幹線については、国土交通省等が施工する道路改良及び河川改修工事の進捗等に併せて、また、リニア駅周辺整備に伴い中長期的に整備を図ります。					
現状と課題	近年のゲリラ豪雨により一部地域において浸水被害が発生しており、その対策として、今後も地域要望に対応していくとともに、雨水管きょ幹線の計画的な整備が課題となっています。					
事業計画	名称	説明	年度	2022	2023	2024
	通常整備	地域要望等に応じた対策の実施				
	中長期整備	排水区単位で幹線を対象とした対策の実施				
業務指標	名称	目標値に対する取組状況等	目標値	300	300	300
	整備延長（m）	実績	実績	310	実績評価（担当）	T4
		地域要望等に応じて5箇所の工事が完了した。	2021年度末実績（参考）	498		
事業費予算額（千円）				90,105		
事業費決算額（千円）				69,813		
事業評価（担当）					B	
取組状況及び今後の展開（担当）	地域要望に対する整備については、今後も継続的に対応していく。また、幹線の整備については、中長期的な課題を踏まえ、今後の整備方針を検討していく。					
事業評価（推進委員会）					B	
推進委員会の意見等	引き続き、地域要望に対する整備を進めるとともに、「甲府市公共下水道基本計画雨水計画」に基づき雨水幹線の計画的な整備に努めること。					

業務指標評価 T5：目標達成率110%以上、T4：90%以上110%未満、T3：70%以上90%未満、T2：50%以上70%未満、T1：50%未満

事業評価 A：拡大、B：継続推進、C+：積極的見直し、C-：一部改善、D+：統廃合、D-：縮小、E：休止・廃止、F：完了

第5次戦略推進計画 進捗管理シート（最終）

下水道事業

事業番号10 流入汚水の水質保全対策

対象：令和4（2022）年度

担当課	浄化センター	担当課長	石川 泰明				
経営方針	1 災害に強く快適な下水道（安全・強靱）	施策	（4）公共用水域の水質保全の推進				
目的	特定事業場等から浄化センターに流入する汚水の水質について、立入検査等を行い、下水排除基準に適合した汚水の流入を図ります。						
事業の概要	下水道に接続している特定事業場等の立入検査等を行い、排水水質について適正管理を指導する中で流入汚水の水質保全を図ります。						
現状と課題	排水の水質が下水処理に影響を及ぼす恐れのある特定事業場等には、「特定事業場及び除害施設を有する事業所の立入検査実施計画」に基づき、全特定事業場等へ立入検査を行い、排水水質の適正管理を指導しています。また、流入水の悪化などが起きた時には、必要に応じて臨時的立ち入り検査を行います。						
事業計画	名称	説明	年度				
			2022	2023	2024		
	立入検査	特定事業場等の排水の適正管理の指導のための立入検査					
業務指標	名称	目標値に対する取組状況等	目標値	70	70	70	
	立入検査事業所件数（件）	実績	特定事業場等の実態調査のため71事業場の立入検査を行った。	実績	71	実績評価（担当）	T4
				2021年度末実績（参考）		70	
事業費予算額（千円）			1,584				
事業費決算額（千円）			1,375				
事業評価（担当）				B			
取組状況及び今後の展開（担当）	特定事業場等の立入検査を、平成27年度に策定した「特定事業場及び除害施設を有する事業所の立入検査実施計画（5年サイクル）」に基づき行いました。引き続き、悪質な下水流入を未然に防ぐため、立入検査及び水質検査を実施する。						
事業評価（推進委員会）				B			
推進委員会の意見等	「特定事業場及び除害施設を有する事業所の立入検査実施計画」に基づき、適切に全特定事業場等へ立入検査を行い、排水水質の適正管理を指導すること。						

業務指標評価 T5：目標達成率110%以上、T4：90%以上110%未満、T3：70%以上90%未満、T2：50%以上70%未満、T1：50%未満

事業評価 A：拡大、B：継続推進、C+：積極的見直し、C-：一部改善、D+：統廃合、D-：縮小、E：休止・廃止、F：完了

第5次戦略推進計画 進捗管理シート（最終）

下水道事業

事業番号 11 放流水の水質保全対策

対象：令和4（2022）年度

担当課	浄化センター		担当課長	石川 泰明		
経営方針	1 災害に強く快適な下水道（安全・強靱）		施策	（4）公共用水域の水質保全の推進		
目的	環境保全のため「富士川流域別下水道整備総合計画」で定められた水質基準を遵守し、適切な運転管理を行い、放流水の水質保全を図ります。					
事業の概要	処理場機能を適切に保ち、引き続き適正な下水処理を行います。					
現状と課題	<p>現状は「富士川流域別下水道整備総合計画」で定められた放流水質基準値BOD 9mg/ℓ以下の水質は遵守できています。 バルキング※1が発生すると水質が悪化するため、対応方法として嫌気好気法※2などの処理方法の検討が必要となっています。</p> <p>※1バルキング：処理工程において糸状性細菌が増殖することにより、最終沈殿池において、汚泥が膨潤して沈降しにくくなる現象が発生し、処理水質の悪化を招くこと。</p>					
事業計画	名称	説明	年度	2022	2023	2024
	放流水質検査	放流水質基準値 BOD9mg/ℓ以下				
	処理方法の検討と実施	疑似嫌気好気法※2など処理方法の検討と対策実施 ※2嫌気好気法：処理工程の一部を使って、微生物に必要な散気をしない部分（嫌気状態）を作り出すことにより、糸状性細菌の増殖を抑制させる方法。				
業務指標	名称	目標値に対する取組状況等	目標値	240	240	240
	水質検査回数（回）	実績 法令に基づき、pH、SS、BOD、大腸菌群数の4項目についての水質検査を、月に1回行った。 BODは58回、大腸菌群数は24回、pH、SS（COD含む）は248回（土日祝日以外の全日）の放流水質検査を実施し、検査の結果は全て基準値内であった。	実績	248	実績評価（担当）	T4
				2021年度未実績（参考）	246	
事業費予算額（千円）				—		
事業費決算額（千円）				—		
事業評価（担当）					B	
取組状況及び今後の展開（担当）		適切な運転管理を行った結果、放流水のBODなど水質検査の結果は全て基準値内であった。引き続き、処理場機能を適切に保ち良好な下水処理を行い水質基準を遵守する。				
事業評価（推進委員会）					B	
推進委員会の意見等		引き続き適切な運転管理を行い、水質基準を遵守し公共用水域の保全に努めること。				

業務指標評価 T5：目標達成率110%以上、T4：90%以上110%未満、T3：70%以上90%未満、T2：50%以上70%未満、T1：50%未満

事業評価 A：拡大、B：継続推進、C+：積極的見直し、C-：一部改善、D+：統廃合、D-：縮小、E：休止・廃止、F：完了

第5次戦略推進計画 進捗管理シート（最終）

下水道事業

事業番号12 企業債依存度の縮減と資金調達手法の検討

対象：令和4（2022）年度

担当課	経営企画課		担当課長	小澤 昭洋		
経営方針	2 将来に繋げる下水道（持続）		施策	（1）経営基盤の強化		
目的	事業経営に大きな影響を与えている企業債依存度の縮減や、様々な資金調達手法の検討を行い、投資財源の適正化を図るとともに、将来の財政負担軽減に努めます。					
事業の概要	国庫補助金等の補助金を最大限活用し、施設の整備・更新のために必要な資金の確保に努め、適正水準での計画的な企業債の借入を行います。また、将来の財政負担の軽減を図るため、様々な資金調達手法を検討します。					
現状と課題	下水道事業は、施設の整備・改築に莫大な資金を必要とします。そのため、投資財源である企業債の償還経費は事業経営に大きな影響を与えています。老朽化した施設の更新資金の確保が必要となりますが、企業債発行については、事業量に応じた適正な水準で発行することが必要となっています。					
事業計画	名称	説明	年度	2022	2023	2024
	企業債依存度の縮減	企業債の必要最小限の借入				
	様々な資金調達手法の調査・検討	様々な資金調達手法について調査・検討				
業務指標	名称	目標値に対する取組状況等	目標値	775	740	705
	企業債残高対事業規模比率（%）（公共）	実績 国庫補助金等を最大限活用し、起債の抑制に努めた。	実績	669	実績評価（担当）	T4
			2021年度末実績（参考）	693		
事業費予算額（千円）				—		
事業費決算額（千円）				—		
事業評価（担当）					B	
取組状況及び今後の展開（担当）	引き続き、国庫補助金等を活用し起債を抑制することで、企業債残高の減少に努めていく。					
事業評価（推進委員会）					B	
推進委員会の意見等	国庫補助金等を最大限活用する中で、適正な規模で企業債を発行し、企業債残高の縮減に努めること。					

業務指標評価 T5：目標達成率110%以上、T4：90%以上110%未満、T3：70%以上90%未満、T2：50%以上70%未満、T1：50%未満

事業評価 A：拡大、B：継続推進、C+：積極的見直し、C-：一部改善、D+：統廃合、D-：縮小、E：休止・廃止、F：完了

第5次戦略推進計画 進捗管理シート（最終）

下水道事業

事業番号 13 適正な下水道使用料の継続的な検討

対象：令和4（2022）年度

担当課	経営企画課		担当課長	小澤 昭洋			
経営方針	2 将来に繋げる下水道（持続）		施策	（1）経営基盤の強化			
目的	下水道使用料は、下水道法第20条で「能率的な管理の下における適正な原価を超えないものであること」と定められており、持続可能な下水道事業経営を図るための適正な下水道使用料の検討を継続的に行います。						
事業の概要	概ね3年ごとに下水道使用料の見直しを行います。使用料算定期間や適正な使用料の算定にあたり第三者機関である「甲府市水道料金等審議会」を設置し、下水道使用料の審議をいただくとともに、適正な下水道使用料の検討を継続的に行います。						
現状と課題	令和2（2020）年度に「甲府市水道料金等審議会」を設置し、令和3（2021）年度から令和5（2023）年度までを算定期間とした下水道使用料について答申をいただき、その答申を尊重する中で、下水道使用料は改定しないこととしました。 下水道使用料の減収傾向が続く中、更なる人口減少や新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響などにより、水需要動向は減少傾向が強まることも予測されることから、適正な下水道使用料の継続的な検討が必要になります。 また、「甲府市上下水道事業経営戦略」（以下「経営戦略」という。）は、一定期間の成果の検証・評価に基づき改定が必要とされていることから、令和6（2024）年度の改定を目標に進捗管理を行っていく必要があります。						
事業計画	名称	説明	年度	2022	2023	2024	
	下水道使用料水準の確認・検討	現状の下水道使用料が適正な水準かどうか、決算状況に基づき確認・検討		[進捗バー]			
	水道料金等審議会の設置	概ね3年に1度、適正な水道料金等について審議する第三者機関を設置		[進捗バー]			
	経営戦略の改定	毎年度の進捗管理と一定期間の成果の検証・評価に基づく改定		[進捗バー]			
業務指標	名称	目標値に対する取組状況等	目標値	100以上	100以上	100以上	
	経費回収率（%）	実績	下水道使用料 $\frac{3,154,123}{3,102,277} \times 100$ 汚水処理費（公費分を除く）	実績	101.67	実績評価（担当）	T4
				2021年度末実績（参考）	102.21		
	名称	目標値に対する取組状況等	目標値	—	6	—	
	水道料金等審議会の回数（回）	実績	—	実績	—	実績評価（担当）	—
2021年度末実績（参考）				—			
事業費予算額（千円）				—			
事業費決算額（千円）				—			
事業評価（担当）					B		
取組状況及び今後の展開（担当）	下水道使用料は、減少傾向にあることから、経営基盤の強化に取り組む中で、令和5（2023）年度に設置予定の「甲府市水道料金等審議会」において、今後の下水道使用料について審議していただき、適正な下水道使用料について検討する。						
事業評価（推進委員会）					B		
推進委員会の意見等	下水道使用料は、今後においても減収傾向が続くことが予想されることから、適正な料金の算定に必要な情報収集等に努めるとともに、水道料金等審議会で審議していただき、適正な下水道使用料の検討を行うこと。						

業務指標評価 T5：目標達成率110%以上、T4：90%以上110%未満、T3：70%以上90%未満、T2：50%以上70%未満、T1：50%未満

事業評価 A：拡大、B：継続推進、C+：積極的見直し、C-：一部改善、D+：統廃合、D-：縮小、E：休止・廃止、F：完了

第5次戦略推進計画 進捗管理シート（最終）

下水道事業

事業番号14 排水設備台帳システムの整備

対象：令和4（2022）年度

担当課	給排水課		担当課長	今井 洋和		
経営方針	2 将来に繋げる下水道（持続）		施策	（1）経営基盤の強化		
目的	排水設備台帳の電子化を行い、排水設備台帳閲覧者への情報提供の迅速化等事務の効率化を図るとともに、地図情報管理システム（GIS）への統合について調査・研究を行い排水設備業務の更なる効率化を図ります。					
事業の概要	排水設備台帳について、随時電子化を図ります。					
現状と課題	排水設備台帳は随時電子化しています。更に、業務の効率化を図るには、地図情報管理システム（GIS）への統合について検討する必要があります。					
事業計画	名称	説明	年度	2022	2023	2024
	排水設備台帳の電子化	随時、排水設備台帳の電子化を図る				
	地図情報管理システム（GIS）への統合について検討	統合に向けた検討				
業務指標	名称	目標値に対する取組状況等	目標値	1,000	1,000	1,000
	電子化件数（件）	実績 排水設備工事に係る申請受理後、随時、排水設備台帳の電子化を行った。申請数の微増に伴い、電子化件数は昨年度を上回った。	実績	795	実績評価（担当）	T3
			2021年度末実績（参考）	773		
事業費予算額（千円）				—		
事業費決算額（千円）				—		
事業評価（担当）					B	
取組状況及び今後の展開（担当）	引き続き、排水設備工事申請に伴う排水設備台帳の電子化を推進するとともに、業務の更なる効率化を視野に地図情報システムとの連携等について検討していく。					
事業評価（推進委員会）					B	
推進委員会の意見等	排水設備台帳の電子化については、業務の効率化だけでなくお客様サービスの向上にもつながることから、引き続き、正確かつ迅速な対応に努めること。					

業務指標評価 T5：目標達成率110%以上、T4：90%以上110%未満、T3：70%以上90%未満、T2：50%以上70%未満、T1：50%未満

事業評価 A：拡大、B：継続推進、C+：積極的見直し、C-：一部改善、D+：統廃合、D-：縮小、E：休止・廃止、F：完了

第5次戦略推進計画 進捗管理シート（最終）

下水道事業

事業番号15 下水道台帳管理システムデータ整備

対象：令和4（2022）年度

担当課	計画課	担当課長	照沼 昇				
経営方針	2 将来に繋げる下水道（持続）	施策	（1）経営基盤の強化				
目的	下水道管路の維持管理に必要なデータの精査・整備を進め、維持管理をはじめとした業務に高い精度で活用できるシステムの構築を推進していきます。						
事業の概要	ストックマネジメント計画に基づき実施する管路調査で得た結果を基にデータの整理を行うとともに、過年度分の下水道施設書類（排水設備台帳）とシステムの照合を行い、欠落している施設の入力を行います。また、雨水管きよのデータ整備も併せて行います。						
現状と課題	ストックマネジメント計画に基づき実施する管路調査で得た結果は、随時データに反映するとともに、過年度分の下水道施設や雨水管きよについて、施設台帳整備、現地調査、入力方法等を含め検討し、効率的にデータ整備を行う必要があります。						
事業計画	名称	説明	年度	2022	2023	2024	
	排水設備未入力箇所データ入力	排水設備未入力箇所データ整理及び入力（管路調査委託データ等）					
	雨水管きよデータ入力	雨水管きよデータ整理及び入力					
	過年度未入力雨水管きよデータ入力	過年度未入力雨水管きよデータ整理及び入力					
業務指標	名称	目標値に対する取組状況等	目標値	100	100	100	
	現年雨水管きよ修正率（%）	実績	現年度完成した雨水管きよ工事5箇所（310m）のデータ入力を完了した。	実績	100	実績評価（担当）	T4
				2021年度末実績（参考）	100		
事業費予算額（千円）				1,011			
事業費決算額（千円）				902			
事業評価（担当）					B		
取組状況及び今後の展開（担当）	過年度未入力の雨水管きよデータ入力は完了し、現年度の雨水管きよデータについては、引き続き入力を行っていく。排水設備における未入力箇所のデータ入力は、管路調査委託等で得たデータをもとに、入力作業を進める。						
事業評価（推進委員会）					B		
推進委員会の意見等	雨水管きよのデータ入力を随時更新するとともに、未入力の排水設備についても継続してデータ整備を図ることにより、高い精度で活用できるように努めること。						

業務指標評価 T5：目標達成率110%以上、T4：90%以上110%未満、T3：70%以上90%未満、T2：50%以上70%未満、T1：50%未満

事業評価 A：拡大、B：継続推進、C+：積極的見直し、C-：一部改善、D+：統廃合、D-：縮小、E：休止・廃止、F：完了

第5次戦略推進計画 進捗管理シート（最終）

下水道事業

事業番号16 下水道使用料の収納率向上、滞納整理の強化

対象：令和4（2022）年度

担当課	営業課	担当課長	長田 和平			
経営方針	2 将来に繋げる下水道（持続）	施策	（1）経営基盤の強化			
目的	下水道事業は下水道使用料等の収入による独立採算制を原則に経営を行っていることから、収入確保に直結する収納率の向上、滞納整理の強化を図ります。					
事業の概要	滞納整理業務の強化として、一調定未納者※に対して催告書の送付及び電話催告を行い、未収金の早期回収に取り組んでいきます。また、滞納整理アドバイザーを活用しながら、下水道使用料の強制徴収も行い、滞納整理の強化を図ります。					
現状と課題	人口減少や節水機器の普及等による水需要の減少傾向に伴う厳しい経営環境の中、財源を確保するために収納率を向上させることは重要な課題であり、委託業者と連携を図り、未収金の削減に努めていきます。					
事業計画	名称	説明	年度	2022	2023	2024
	下水道使用料の収納率向上	滞納者に対する速やかな催告書送付、電話催告等の滞納整理業務				
業務指標	名称	目標値に対する取組状況等	目標値	現年度 87.10 過年度 99.83	現年度 87.10 過年度 99.83	現年度 87.10 過年度 99.83
	下水道使用料の収納率、現年度・過年度（％）	実績	実績	現年度 89.17 過年度 99.87	実績評価 （担当）	T4
		未納者に対して督促状、催告状など文書による催告のほか、電話や臨戸訪問による滞納整理を実施した。また、水道事業における給水停止により水道利用金と併せて徴収することにより、未収金の早期回収に努めた。		2021年度末 実績（参考）	現年度 88.76 過年度 99.87	
事業費予算額（千円）				100		
事業費決算額（千円）				100		
事業評価（担当）				B		
取組状況及び今後の展開（担当）	未納者に対して督促状、催告状など文書による納付催告を行うとともに、電話や臨戸訪問での催告及び水道事業における給水停止により水道料金と併せて徴収するなど、収納率の向上に努める。					
事業評価（推進委員会）				B		
推進委員会の意見等	継続して、きめ細かな納付催告を行うとともに、滞納整理業務の強化を図り、収納率の向上に努めること。					

業務指標評価 T5：目標達成率110%以上、T4：90%以上110%未満、T3：70%以上90%未満、T2：50%以上70%未満、T1：50%未満

事業評価 A：拡大、B：継続推進、C+：積極的見直し、C-：一部改善、D+：統廃合、D-：縮小、E：休止・廃止、F：完了

第5次戦略推進計画 進捗管理シート（最終）

下水道事業

事業番号 17 民間活力の活用推進（営業部門）

対象：令和4（2022）年度

担当課	営業課		担当課長	長田 和平			
経営方針	2 将来に繋げる下水道（持続）		施策	（1）経営基盤の強化			
目的	民間事業者の専門知識・技術・ノウハウを活用し、経営の効率化を図ります。						
事業の概要	営業部門の各業務を包括的に委託しているサービスセンター業務委託は、新たに委託する業務を追加し、令和元（2019）年度から第2期を開始しています。各業務においては、民間事業者の専門知識・技術・ノウハウを活用し、更なる効率的な事業運営に努めます。						
現状と課題	サービスセンター業務委託について、毎月開催する評価委員会で業務の評価を行っており、本局が求めた水準を満たしていますが、お客様ニーズを把握する中で、業務の効率化及び更なるお客様サービスの向上を図っていきます。						
事業計画	名称	説明	年度	2022	2023	2024	
	サービスセンター業務委託（2期）	窓口業務や検針業務等の包括民間委託（令和元（2019）年度から令和5（2023）年度まで）					
	サービスセンター業務委託（3期）	窓口業務や検針業務等の包括民間委託（令和6（2024）年度から令和10（2028）年度まで）					
業務指標	名称	目標値に対する取組状況等	目標値	12	12	12	
	受託事業者評価委員会開催回数（回）	実績	受託事業者評価委員会を毎月開催し、業務の履行状況を確認するとともに、必要に応じ指導・助言を行い、業務水準の向上に努めた。	実績	12	実績評価（担当）	T4
				2021年度末実績（参考）		12	
	名称	目標値に対する取組状況等	目標値	100	100	100	
	業務実施基準達成率（%）	実績	受託事業者評価委員会において、全ての業務実施基準を達成したことを確認した。	実績	100	実績評価（担当）	T4
2021年度末実績（参考）				100			
事業費予算額（千円）				—			
事業費決算額（千円）				—			
事業評価（担当）					B		
取組状況及び今後の展開（担当）	業務実施基準を満たし、適切に業務が履行された。今後も継続して民間事業者の技術・ノウハウを活用し、経営の効率化を図っていく。						
事業評価（推進委員会）					B		
推進委員会の意見等	今後も、サービスセンターの指導・監督を行い更なるお客様サービスの向上を図るとともに業務の効率化に努めること。						

業務指標評価 T5：目標達成率110%以上、T4：90%以上110%未満、T3：70%以上90%未満、T2：50%以上70%未満、T1：50%未満

事業評価 A：拡大、B：継続推進、C+：積極的見直し、C-：一部改善、D+：統廃合、D-：縮小、E：休止・廃止、F：完了

第5次戦略推進計画 進捗管理シート（最終）

下水道事業

事業番号 18 民間活力の活用推進（排水施設等）

対象：令和4（2022）年度

担当課	下水道課		担当課長	向井 一哲		
経営方針	2 将来に繋げる下水道（持続）		施策	（1）経営基盤の強化		
目的	民間事業者の専門知識や技術・ノウハウを活用し、民間的経営手法を積極的に導入することにより、経営の効率化を図ります。					
事業の概要	汚水管さよ及び雨水管さよ修繕業務・清掃業務、清掃土砂運搬処分業務の民間委託により管路の維持管理を行います。また、更なる効率化等に向けた調査研究を行います。					
現状と課題	汚水管さよ及び雨水管さよ修繕業務・清掃業務、清掃土砂運搬処分業務の民間委託について、実績の検証を行い、管路の維持管理業務全般の効率化等に係る調査研究を行う必要があります。					
事業計画	名称	説明	年度	2022	2023	2024
	汚水管さよ及び雨水管さよ修繕・清掃、清掃土砂運搬業務委託	管路の維持管理業務全般について、委託実績の検証及び更なる効率化等に向けた調査研究				
	管路の維持管理業務全般の効率化等について、調査研究					
業務指標	名称	目標値に対する取組状況等	目標値	2	2	2
	業務委託の実績検証回数（回）	実績	実績	2	実績評価（担当）	T4
			2021年度末実績（参考）	2		
事業費予算額（千円）				57,460		
事業費決算額（千円）				56,812		
事業評価（担当）					B	
取組状況及び今後の展開（担当）		突発的事案に対しは緊急性を求められることが多いが、更なる効率化に向け、委託形態等について引き続き検証していく。				
事業評価（推進委員会）					B	
推進委員会の意見等		今後も適切な維持管理に努めるとともに、業務の更なる効率化を図ること。				

業務指標評価 T5：目標達成率110%以上、T4：90%以上110%未満、T3：70%以上90%未満、T2：50%以上70%未満、T1：50%未満

事業評価 A：拡大、B：継続推進、C+：積極の見直し、C-：一部改善、D+：統廃合、D-：縮小、E：休止・廃止、F：完了

第5次戦略推進計画 進捗管理シート（最終）

下水道事業

事業番号19 民間活力の活用推進（水処理施設等）

対象：令和4（2022）年度

担当課	浄化センター		担当課長	石川 泰明			
経営方針	2 将来に繋げる下水道（持続）		施策	（1）経営基盤の強化			
目的	民間事業者の専門知識・技術・ノウハウを活用し、経営の効率化を図ります。						
事業の概要	浄化センター及びポンプ場の運転管理等業務を包括的民間委託により平成29（2017）年度（第5期）から開始し、令和3（2021）年度で契約が満了となります。令和4（2022）年度から新たに第6期の委託が開始されます。継続して、効率的で安定した運転管理を行います。						
現状と課題	甲府市浄化センター水処理施設運転管理等業務委託（第6期）は、業務開始から受託事業者評価委員会の中で業務内容を審査検証し求めた業務実施基準を満たし履行されていますが、さらに経営の効率化及び施設の安全性の確保を図る必要があります。						
事業計画	名称	説明	年度	2022	2023	2024	
	甲府市浄化センター運転管理等委託（第6期）	水処理施設の運転管理等業務（令和4（2022）～令和6（2024）年度）					
業務指標	名称	目標値に対する取組状況等	目標値	12	12	12	
	受託事業者評価委員会開催回数（回）	実績	受託事業者評価委員会を毎月開催し履行状況を確認した。	実績	12	実績評価（担当）	T4
				2021年度末実績（参考）	12		
	名称	目標値に対する取組状況等	目標値	100	100	100	
業務実施基準達成率（%）	実績	受託事業者評価委員会において、全ての業務実施基準を達成したことを確認した。	実績	100	実績評価（担当）	T4	
			2021年度末実績（参考）	100			
事業費予算額（千円）				263,340			
事業費決算額（千円）				263,340			
事業評価（担当）					B		
取組状況及び今後の展開（担当）	業務実施基準を満たし、適切に業務が履行した。今後も継続して民間事業者の技術、ノウハウを活用し、経営の効率化を図っていく。						
事業評価（推進委員会）					B		
推進委員会の意見等	今後も業務実施基準を達成し経営の効率化が図れるよう、受託事業者に対し指導・助言を行い適切な運転管理に努めること。						

業務指標評価 T5：目標達成率110%以上、T4：90%以上110%未満、T3：70%以上90%未満、T2：50%以上70%未満、T1：50%未満

事業評価 A：拡大、B：継続推進、C+：積極的見直し、C-：一部改善、D+：統廃合、D-：縮小、E：休止・廃止、F：完了

第5次戦略推進計画 進捗管理シート（最終）

下水道事業

事業番号20 効率的な事務の推進

対象：令和4（2022）年度

担当課	全 課（総務課）		担当課長	渡辺 洋司			
経営方針	2 将来に繋げる下水道（持続）		施策	（1）経営基盤の強化			
目的	<p>Web会議により交通費等を削減し、遠隔地とのリアルタイムな交信により多様な働き方を実現するとともに、感染症まん延防止策としても意義がある非接触型会議により、事務の効率化を図ります。また、小型無人機（以下「ドローン」という。）やウェアラブルカメラ等によるデジタル技術を活用したデジタルトランスフォーメーション※（以下「DX」という。）を推進し、近年頻発する豪雨災害や大規模地震への備えのほか、経験豊富な技術者の退職に伴う人材育成が喫緊の課題となる中、先端技術を取り入れることで生活水の永続的な安定処理に繋がっていきます。</p> <p>※デジタルトランスフォーメーション（DX）とは、デジタル技術を活用して行政サービス（事業）を変革（効率化）すること。</p>						
事業の概要	Web会議専用設備の活用により事務の効率化を推進します。また、ドローンやウェアラブルカメラの導入を図り、「下水道DX」を推進します。						
現状と課題	厳しい経営状況が見込まれている中、経営基盤の強化を図っていくため経費節減や時間の有効活用等事務の効率化を図る必要があります。また、デジタル技術を活用した「下水道DX」を推進し、生活水の永続的な安定処理に繋がっていく必要があります。						
事業計画	名称	説明	年度	2022	2023	2024	
	Web会議専用設備の活用	会議時のWeb会議専用設備の使用による効率化					
	ドローンの活用及びウェアラブルカメラの導入	下水道DXの推進					
業務指標	名称	目標値に対する取組状況等	目標値	運用	運用	運用	
	Web会議専用設備の運用	実績	Web会議の運用により、移動時間の縮減による事務の効率化が図れた。	実績	運用	実績評価（担当）	T4
				2021年度末実績（参考）	—		
事業費予算額（千円）				536			
事業費決算額（千円）				208			
事業評価（担当）					B		
取組状況及び今後の展開（担当）	県外での研修や県外事業者との会議をWeb会議にすることで、コロナ禍における感染リスクの軽減と移動時間の縮減及び出張旅費などの経費削減に努めた。						
事業評価（推進委員会）					B		
推進委員会の意見等	Web会議の導入により、新型コロナウイルス感染のリスク軽減と経費の削減効果が得られた。今後においてはデジタル化による事務の効率化を進めて行くこと。						

業務指標評価 T5：目標達成率110%以上、T4：90%以上110%未満、T3：70%以上90%未満、T2：50%以上70%未満、T1：50%未満

事業評価 A：拡大、B：継続推進、C+：積極的見直し、C-：一部改善、D+：統廃合、D-：縮小、E：休止・廃止、F：完了

第5次戦略推進計画 進捗管理シート（最終）

下水道事業

事業番号 21 下水道事業の広域化・共同化の推進

対象：令和4（2022）年度

担当課	経営企画課・計画課		担当課長	小澤 昭洋・照沼 昇		
経営方針	2 将来に繋げる下水道（持続）		施策	(1) 経営基盤の強化		
目的	下水道事業を取り巻く経営環境は、人口減少や施設の老朽化等に伴い、経営環境が厳しさを増すことが見込まれ、効率的な事業運営が求められていることから、経営の持続可能性を確保するため、関係市町村等との広域化・共同化の検討を行います。					
事業の概要	山梨県は国から令和4（2022）年度末までに汚水処理の事業運営に係る「広域化・共同化計画」の策定・公表を要請されていることから、策定に向けて県が設置した「汚水処理の広域化・共同化に関する検討会」（以下「検討会」という。）への参加を通じて広域化・共同化について検討を行います。					
現状と課題	検討会へ積極的に参加し、関係市町村等の広域化・共同化に対する共通認識を深めていく必要があります。関係市町村等との状況把握や広域化・共同化が可能なメニューをハード対策及びソフト対策の2分野に分けて検討を深め、関係市町村等との合意形成を図るとともに、「甲府市上下水道事業経営戦略」（以下「経営戦略」という。）へ反映していく必要があります。					
事業計画	名称	説明	年度	2022	2023	2024
	検討会への参加	広域化・共同化計画策定に向けた協議・検討		[Bar chart showing activity in 2022]		
	広域化・共同化計画メニューの検討	策定された共同化メニューの実施に向けた検討・協議		[Bar chart showing activity from 2023 to 2024]		
	経営戦略の改定	広域化・共同化計画策定内容を経営戦略に反映		[Bar chart showing activity in 2024]		
業務指標	名称	目標値に対する取組状況等	目標値	2	2	2
	経営会議（広域連携検討部会）の回数（回）	実績	広域連携検討部会の開催 第1回：令和4年4月 第2回：令和4年5月 第3回：令和4年12月	実績	3	実績評価（担当） T5
			2021年度末実績（参考）	2		
事業費予算額（千円）				—		
事業費決算額（千円）				—		
事業評価（担当）					B	
取組状況及び今後の展開（担当）	山梨県において、令和4（2022）年度末に「山梨県生活排水処理施設広域化・共同化計画」が策定された。引き続き、県の検討会に参画する中で、本市下水道事業の効率的な運営に向けて広域化・共同化メニューの効果的な実施に取り組む。					
事業評価（推進委員会）					B	
推進委員会の意見等	県の検討会に参画し、広域連携検討部会において協議・検討する中で持続可能な下水道事業経営に向けた広域的な連携を図り、効果的に広域化・共同化を推進すること。					

業務指標評価 T5：目標達成率110%以上、T4：90%以上110%未満、T3：70%以上90%未満、T2：50%以上70%未満、T1：50%未満

事業評価 A：拡大、B：継続推進、C+：積極的見直し、C-：一部改善、D+：統廃合、D-：縮小、E：休止・廃止、F：完了

第5次戦略推進計画 進捗管理シート（最終）

下水道事業

事業番号22 上下水道事業アセットマネジメントシステムの運用等

対象：令和4（2022）年度

担当課	計画課・下水道課・浄化センター		担当課長	照沼 昇・向井 一哲・石川 泰明		
経営方針	2 将来に繋げる下水道（持続）		施策	(2) 効果的な改築		
目的	甲府市下水道ストックマネジメント計画の対象施設である管路施設、甲府市浄化センター等が保有する施設・設備等のデータベース化を図り、施設の基本情報をはじめ、維持管理計画や調査結果・結果判定に基づく改築計画まで、膨大な情報を一元的に管理することが可能となるシステムを構築・運用することにより、適正かつ効率的な事業の実施を図ります。					
事業の概要	平成27・28（2015・2016）年度に策定した中長期にわたるアセットマネジメントの手法を取り入れた更新計画を実施していくため、情報のデータベース化を図るとともに、甲府市下水道ストックマネジメント計画に基づき実施される調査及び改築等の成果を管理するために構築した施設設備管理システムを運用します。また、運用に必要なデータを適正に管理するとともに、PDCAを継続的に回しながら、5年に1度の次期計画策定（令和9（2027）年度～令和13（2031）年度）に伴う調査基準などの変更へ対応するためのシステム機能の修正・更新を図っていきます。					
現状と課題	管路施設のデータ管理については、地図情報管理システムを活用する中で進めることとし、処理場、ポンプ場施設等のデータ管理を行う施設設備管理システムについては、「甲府市下水道ストックマネジメント計画」と連動したシステムとして適正に運用するため、必要なデータの整備、蓄積と更新を継続して実施していく必要があります。					
事業計画	名称	説明	年度	2022	2023	2024
	アセットマネジメントシステムの運用（施設設備管理システム）	各施設データに、調査・計画等の情報を加え、施設管理や事業進捗管理ができるシステムの運用				
	アセットマネジメントシステム更新（地図情報管理システム「下水道維持管理版」）	ストックマネジメント計画の見直しに伴う基礎データの更新				
業務指標	名称	目標値に対する取組状況等	目標値	運用更新	運用	運用
	アセットマネジメントシステムの運用と更新	実績 施設設備管理システムに係る情報の蓄積に努めながら、システム機能の改善を図った。 ストックマネジメント計画の見直しに伴う基礎データを更新した。	実績	運用更新	実績評価（担当）	T4
事業費予算額（千円）				4,253		
事業費決算額（千円）				4,246		
事業評価（担当）					B	
取組状況及び今後の展開（担当）	施設設備管理システムに係る情報の蓄積に努めながら、システム運用における課題を整理し業務への定着を図る。					
事業評価（推進委員会）					B	
推進委員会の意見等	データの蓄積や管理を継続するとともに、施設の工事や日常点検の情報も入力を検討しながら、機能の改善や更新を図ることで、適正かつ効率的な事業の実施を進めること。					

業務指標評価 T5：目標達成率110%以上、T4：90%以上110%未満、T3：70%以上90%未満、T2：50%以上70%未満、T1：50%未満

事業評価 A：拡大、B：継続推進、C+：積極的見直し、C-：一部改善、D+：統廃合、D-：縮小、E：休止・廃止、F：完了

第5次戦略推進計画 進捗管理シート（最終）

下水道事業

事業番号23 管路施設の調査及び改築事業（第六次甲府市総合計画実施計画 事業番号 上下-12）

対象：令和4（2022）年度

担当課	下水道課		担当課長	向井 一哲		
経営方針	2 将来に繋げる下水道（持続）		施策	（2）効果的な改築		
目的	法定耐用年数50年を超過する管路施設が急増し老朽化が加速する中で、施設状況を客観的に評価し、ライフサイクルコストの比較検討を行い、計画的かつ効率的な施設の改築を図っていくことで、持続可能な下水道事業を確立し、良質な下水道サービスの提供を継続します。					
事業の概要	ストックマネジメント計画に基づき、鉄蓋を含めて管路調査を行い、改築対象路線を選定する中で、管きよ及び鉄蓋の改築を実施するとともに、陶管が使われている取付管とますの改築も併せて行っています。					
現状と課題	管路施設の経過年数及び重要度を勘案し、調査の結果緊急度の高い管路について、遅滞なく改築を実施していく必要があります。					
事業計画	名称	説明	年度	2022	2023	2024
	管路調査	ストックマネジメント計画に基づく管路調査				
	管きよ改築	調査結果に基づく管路の改築				
	鉄蓋改築	調査結果に基づく鉄蓋の改築				
	取付管及びます改築	陶製取付管及びますの改築				
業務指標	名称	目標値に対する取組状況等	目標値	10,000	14,000	14,000
	管路調査延長（m）	実績	管路調査委託2件（4,670.76m+5,944m=10,614.76m）が完了した。	実績	10,615	実績評価（担当） T4
				2021年度末実績（参考）	13,918	
	名称	目標値に対する取組状況等	目標値	1,900	2,500	2,550
	管きよ改築延長（m）	実績	工事2件（管更生466.12m、布設替え93.4m、計559.52m）と、R3年度繰越工事（管更生512.14m）を合わせ1,071.66mを完了した。	実績	1,072	実績評価（担当） T2
				2021年度末実績（参考）	1,689	
	名称	目標値に対する取組状況等	目標値	50	50	50
	鉄蓋改築箇所数（箇所）	実績	工事2件において、50箇所の取替を完了した。	実績	50	実績評価（担当） T4
2021年度末実績（参考）				50		
名称	目標値に対する取組状況等	目標値	100	100	100	
取付管及びます改築箇所数（箇所）	実績	工事2件において、100箇所の取替を完了した。	実績	100	実績評価（担当） T4	
			2021年度末実績（参考）	50		
事業費予算額（千円）				745,425		
事業費決算額（千円）				280,921		
事業評価（担当）					C+	
取組状況及び今後の展開（担当）	今後も、「甲府市公共下水道ストックマネジメント計画」に則り計画的な改築等を図っていく。また、交付金等を得られず実施できなかった事業については次年度以降実施する中で、長寿命化を推進していく。					
事業評価（推進委員会）					C+	
推進委員会の意見等	持続可能な下水道事業の確立に向け、「甲府市公共下水道ストックマネジメント計画」に基づいた調査を確実に実施し、計画的な改築を推進させること。					

業務指標評価 T5：目標達成率110%以上、T4：90%以上110%未満、T3：70%以上90%未満、T2：50%以上70%未満、T1：50%未満

事業評価 A：拡大、B：継続推進、C+：積極的見直し、C-：一部改善、D+：統廃合、D-：縮小、E：休止・廃止、F：完了

第5次戦略推進計画 進捗管理シート（最終）

下水道事業

事業番号24 マンホールポンプ施設の調査及び改築事業

対象：令和4（2022）年度

担当課	下水道課		担当課長	向井 一哲			
経営方針	2 将来に繋げる下水道（持続）		施策	（2）効果的な改築			
目的	マンホールポンプ施設の老朽化が進行する中で、設備状況を客観的に評価し、ライフサイクルコストの比較検討を行い、計画的かつ効率的な設備の改築を実施し、汚水圧送機能を維持します。						
事業の概要	ストックマネジメント計画に基づき、マンホールポンプ施設の点検調査を行い、改築対象となる機械設備及び電気設備を選定する中で計画的に改築を実施していきます。						
現状と課題	マンホールポンプ施設の経過年数及び重要度を精査し、健全度評価に基づき、速やかに設備改築を実施していく必要があります。						
事業計画	名称	説明	年度	2022	2023	2024	
	マンホールポンプ調査	ストックマネジメント計画に基づくマンホールポンプの調査					
	マンホールポンプ改築	ストックマネジメント計画に基づくマンホールポンプの改築					
業務指標	名称	目標値に対する取組状況等	目標値	61	66	61	
	マンホールポンプ施設調査箇所数（箇所）	実績	61箇所の施設で調査を実施した。	実績	61	実績評価（担当）	T4
				2021年度末実績（参考）	58		
	名称	目標値に対する取組状況等	目標値	100	100	100	
	マンホールポンプ施設改築率（%）	実績	調査により不具合のあった4件について改築工事を実施した。	実績	100	実績評価（担当）	T4
2021年度末実績（参考）				100			
事業費予算額（千円）				38,060			
事業費決算額（千円）				30,954			
事業評価（担当）					B		
取組状況及び今後の展開（担当）		今後も調査結果に基づき不具合等のあるものについては、速やかに改築修繕を実施していく。					
事業評価（推進委員会）					B		
推進委員会の意見等		老朽化が進行する中で、計画的かつ効率的な設備の改築を実施し、機能の維持に努めること。					

業務指標評価 T5：目標達成率110%以上、T4：90%以上110%未満、T3：70%以上90%未満、T2：50%以上70%未満、T1：50%未満

事業評価 A：拡大、B：継続推進、C+：積極的見直し、C-：一部改善、D+：統廃合、D-：縮小、E：休止・廃止、F：完了

第5次戦略推進計画 進捗管理シート（最終）

下水道事業

事業番号25 処理場等施設の調査及び改築事業（第六次甲府市総合計画実施計画 事業番号 上下-13）

対象：令和4（2022）年度

担当課	浄化センター		担当課長	石川 泰明			
経営方針	2 将来に繋げる下水道（持続）		施策	（2）効果的な改築			
目的	甲府市浄化センター及び住吉中継ポンプ場等について、計画的に設備の調査・改築を実施し、将来にわたって安定した下水処理システムを持続していきます。						
事業の概要	甲府市浄化センター及び住吉中継ポンプ場等の対象設備に対して、下水道ストックマネジメント計画点検・調査基本方針に基づき、健全度を判定し計画的に改築を実施します。						
現状と課題	甲府市浄化センター及び住吉中継ポンプ場等の対象設備については老朽化している設備が多いため、耐震補強工事と施工時期等を調整しながら計画的に改築を推進していきます。						
事業計画	名称	説明	年度	2022	2023	2024	
	設備調査						
	設備改築						
業務指標	名称	目標値に対する取組状況等	目標値	25	25	25	
	設備調査率（％）	実績	防災・安全交付金の交付額減額に伴い、年度内に実施できなかったが、令和4年度補正交付金を追加確保できたことから、次年度へ繰り越し実施する。	実績	0	実績評価（担当）	T1
				2021年度末実績（参考）	—		
	名称	目標値に対する取組状況等	目標値	100	100	100	
	設備年間改築率（％）	実績	浄化センター自家発電設備基本設計業務委託等は完成し、浄化センター汚泥脱水機更新（機械設備）（電気設備）工事（継続事業）は出来形検査を行った。また、住吉中継ポンプ場高段沈砂池設備更新（機械）（電気設備）工事（継続事業）を発注した。改築予定の11の事業のうち、4事業は翌年度に見送り、7事業を行ったので、64%の実績となった。	実績	64	実績評価（担当）	T2
2021年度末実績（参考）				100			
事業費予算額（千円）				1,409,282			
事業費決算額（千円）				494,785			
事業評価（担当）					C+		
取組状況及び今後の展開（担当）		今後も、「甲府市公共下水道ストックマネジメント計画」に則り計画的な改築等を図っていく。また、交付金等を得られず実施できなかった事業については次年度以降実施する中で、長寿命化を推進していく。					
事業評価（推進委員会）					C+		
推進委員会の意見等		持続可能な下水道事業の確立に向け、「甲府市公共下水道ストックマネジメント計画」に基づいた調査を確実に実施し、計画的な改築を推進させること。					

業務指標評価 T5：目標達成率110%以上、T4：90%以上110%未満、T3：70%以上90%未満、T2：50%以上70%未満、T1：50%未満

事業評価 A：拡大、B：継続推進、C+：積極的見直し、C-：一部改善、D+：統廃合、D-：縮小、E：休止・廃止、F：完了

第5次戦略推進計画 進捗管理シート（最終）

下水道事業

事業番号26 正確な汚水排水量の把握

対象：令和4（2022）年度

担当課	営業課	担当課長	長田 和平				
経営方針	2 将来に繋げる下水道（持続）	施策	（3）有収率の向上				
目的	下水道使用料の有収率の向上対策の一環として、下水道に排水する水道水以外（地下水等）の汚水排水量について、正確かつ適正であるか調査を行います。						
事業の概要	お客様からの計量報告により賦課している水道水以外（地下水等）の下水道使用料については、正確な汚水排水量を把握する必要があるため、現地調査を行います。						
現状と課題	現在、水道水以外（地下水等）の下水道への汚水排水量については、地下水専用のメーター（私設メーター）をお客様が設置し、汚水排水量を報告していただいているものがあります。報告数値の適正を確認するため現地を訪問し、現地メーター指針と報告指針の整合性や、メーターの検定満期、メーターの正常な機能の確認を行うことにより、正確な汚水排水量の把握を行います。						
事業計画	名称	説明	年度	2022	2023	2024	
	下水道水以外（地下水等）の汚水排水量の把握	汚水排水量について、現地調査（メータ調査）					
業務指標	名称	目標値に対する取組状況等	目標値	現地調査	現地調査	現地調査	
	汚水排水量について現地調査	実績	汚水排水量について、調査対象の地下水用メーター300件に対して現地調査を実施した。	実績	現地調査	実績評価（担当）	T4
				2021年度末実績（参考）	現地調査		
事業費予算額（千円）				—			
事業費決算額（千円）				—			
事業評価（担当）					B		
取組状況及び今後の展開（担当）	計量報告により下水道使用料を賦課しているお客様については、現地調査を行い汚水排水量の確認を行うとともに、検満によるメーターの取替について指導を行う。また、認定による汚水排水量により下水道使用料を賦課しているお客様については、メーターの設置指導を行う。						
事業評価（推進委員会）					B		
推進委員会の意見等	継続して私設メーターの現地調査等を行う中で、正確かつ適正な汚水排水量の把握に努めること。						

業務指標評価 T5：目標達成率110%以上、T4：90%以上110%未満、T3：70%以上90%未満、T2：50%以上70%未満、T1：50%未満

事業評価 A：拡大、B：継続推進、C+：積極的見直し、C-：一部改善、D+：統廃合、D-：縮小、E：休止・廃止、F：完了

第5次戦略推進計画 進捗管理シート（最終）

下水道事業

事業番号27 浸入水防止対策（管路）

対象：令和4（2022）年度

担当課	下水道課		担当課長	向井 一哲		
経営方針	2 将来に繋げる下水道（持続）		施策	（3）有収率の向上		
目的	雨天時に増加する浸入水量を削減し有収率を向上させるために、効率的かつ効果的な手法による管路への浸入水防止対策を実施します。					
事業の概要	浸入水防止対策対象地区において、雨天時浸入水原因特定調査及び管更生等による止水工事を年次的に実施し、併せてマンホールの雨水浸入防止型鉄蓋取替を行います。					
現状と課題	平成20（2008）年度より原因特定調査及び止水工事を実施しており、止水対策による削減効果を確認したことから、当該手法を基軸とした浸入水対策を推進していきます。また、より効率的かつ効果的な手法について調査研究を行います。					
事業計画	名称	説明	年度	2022	2023	2024
	雨天時浸入水原因特定調査	浸入水防止対策対象地区における雨天時浸入水原因特定調査				
	雨水浸入防止型鉄蓋取替	マンホール鉄蓋からの雨水浸入を防止するための雨水浸入水防止型鉄蓋への取替				
業務指標	名称	目標値に対する取組状況等	目標値	15	22	20
	原因特定調査実施面積（ha）	実績	実績	15	実績評価（担当）	T4
		雨天時浸入水原因特定調査を、上町地区15haにおいて実施した。 ・本管TV調査 L=3,269m ・取付管TV調査 204箇所 ・人孔目視調査 116箇所 ・誤接続調査 184戸	2021年度末実績（参考）	18		
事業費予算額（千円）				34,859		
事業費決算額（千円）				34,859		
事業評価（担当）					B	
取組状況及び今後の展開（担当）	令和2年度から実施してきた岩窪地区においては、浸入水原因特定調査が全て完了したことから、令和5年度から浸入水防止工事を実施する。また、上町・増坪地区については、引き続き浸入水原因特定調査を実施していく。					
事業評価（推進委員会）					B	
推進委員会の意見等	浸入水防止対策に関する新技術等の情報を収集する中で、効率的かつ効果的な対策の実施に努めること。					

業務指標評価 T5：目標達成率110%以上、T4：90%以上110%未満、T3：70%以上90%未満、T2：50%以上70%未満、T1：50%未満

事業評価 A：拡大、B：継続推進、C+：積極的見直し、C-：一部改善、D+：統廃合、D-：縮小、E：休止・廃止、F：完了

第5次戦略推進計画 進捗管理シート（最終）

下水道事業

事業番号28 浸入水防止対策（誤接続）

対象：令和4（2022）年度

担当課	給排水課		担当課長	今井 洋和			
経営方針	2 将来に繋げる下水道（持続）		施策	（3）有収率の向上			
目的	有収率の向上や雨天時に増加する流量を削減させるために、雨天時浸入水対策原因特定調査に基づき、止水対策として分流区域における誤接続解消を図ります。						
事業の概要	雨天時浸入水対策原因特定調査に基づき、誤接続に対し雨水（樋）と排水設備を切り離す指導を行います。						
現状と課題	誤接続に対し、雨水（樋）と排水設備を切り離すことについて、訪問指導を行います。しかしながら、工事費等の問題によって改善に至るには厳しい状況ですが更なる訪問指導等を行い、誤接続の解消を図ります。						
事業計画	名称	説明	年度	2022	2023	2024	
	誤接続訪問指導	下水道課で実施した雨天時浸入水対策原因特定調査による、給排水課への誤接続の報告に基づく訪問指導					
業務指標	名称	目標値に対する取組状況等	目標値	123	133	143	
	誤接続訪問件数（件）	実績	指導対象の精査の結果、確認された149件について訪問指導を行った。	実績	149	実績評価（担当）	T5
				2021年度末実績（参考）	120		
	名称		目標値	3	3	3	
	誤接続解消件数（件）	実績	訪問指導の結果、5件の解消が図られた。	実績	5	実績評価（担当）	T5
				2021年度末実績（参考）	3		
事業費予算額（千円）				-			
事業費決算額（千円）				-			
事業評価（担当）					B		
取組状況及び今後の展開（担当）	高齢化や多額の工事費用などの理由により短期での解消は困難な状況であるため、地道な訪問指導により全対象者の実情に沿ったきめ細かな対応を継続する。						
事業評価（推進委員会）					B		
推進委員会の意見等	引き続き、訪問指導により事業の趣旨を周知するなかで、対象者ごとの有効な手法の提供に努め誤接続の解消を図ること。						

業務指標評価 T5：目標達成率110%以上、T4：90%以上110%未満、T3：70%以上90%未満、T2：50%以上70%未満、T1：50%未満

事業評価 A：拡大、B：継続推進、C+：積極的見直し、C-：一部改善、D+：統廃合、D-：縮小、E：休止・廃止、F：完了

第5次戦略推進計画 進捗管理シート（最終）

下水道事業

事業番号29 人材育成、技術・経営ノウハウの継承

対象：令和4（2022）年度

担当課	総務課		担当課長	渡辺 洋司		
経営方針	2 将来に繋げる下水道（持続）		施策	（4）技術・経営ノウハウの継承		
目的	将来にわたる下水道サービスの維持・向上のため、技術や経営ノウハウの習得を目的として、外部機関等が開催する研修会への職員の積極的な派遣や、職員研修の充実によりスペシャリストを養成していきます。 また、業務マニュアルを見直し、技術・経営ノウハウの継承に努めます。					
事業の概要	特別研修（外部機関の研修を受講する専門研修等）、職場研修（OJT）及び自主研修（自己啓発、自主活動、資格取得等助成）の充実を図ります。 また、業務マニュアルの更新・整備を推進します。					
現状と課題	退職する職員が増加する中で、技術の継承・向上が図られる人材育成に努める必要があります。新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で集合研修が受講できなかった代替策として外部機関の研修ではオンライン研修が広がり、研修を受講しやすくなりましたが、オンライン研修を集中して受講できる環境が必要となっています。					
事業計画	名称	説明	年度	2022	2023	2024
	各種研修の充実	特別研修、職場研修及び自主研修等の充実				
	業務マニュアルの更新・整備	業務マニュアル（各種手順書）の更新・整備				
業務指標	名称	目標値に対する取組状況等	目標値	25.10	25.48	25.86
	研修時間（h） ※重要業務指標	実績 外部機関の研修は、オンライン研修を中心に積極的に受講し、延べ2,618時間405名の職員が受講した。 また、階層別研修や職場研修（OJT）は、延べ2,112時間2,001名の職員が受講した。	実績	29.02	実績評価（担当）	T5
			2021年度末実績（参考）	21.25		
事業費予算額（千円）				2,804		
事業費決算額（千円）				1,388		
事業評価（担当）					B	
取組状況及び今後の展開（担当）		オンライン研修を中心に、県外で開催される技術職員対象の専門研修への参加機会も増やし、スキルの向上を図る。また、技術・経営ノウハウの継承のため、各課で職場研修（OJT）を実施していく。				
事業評価（推進委員会）					B	
推進委員会の意見等		技術・経営ノウハウの継承は、今後の事業運営において重要なテーマであるため、中長期的な視点を持つ中で人材育成に努めること。今後においてもオンライン研修の充実を図る上で、集中して受講できる環境作りに努めること。また、県外で開催される技術職員対象の専門研修への参加機会も増やしていくこと。				

業務指標評価 T5：目標達成率110%以上、T4：90%以上110%未満、T3：70%以上90%未満、T2：50%以上70%未満、T1：50%未満

事業評価 A：拡大、B：継続推進、C+：積極的見直し、C-：一部改善、D+：統廃合、D-：縮小、E：休止・廃止、F：完了

第5次戦略推進計画 進捗管理シート（最終）

下水道事業

事業番号30 戦略的PR活動の展開

対象：令和4（2022）年度

担当課	経営企画課		担当課長	小澤 昭洋		
経営方針	3 お客様満足度の高い下水道（信頼）		施策	(1) 親しみやすく、わかりやすい情報の提供		
目的	下水道事業の施策や経営状況等について広報活動を行うとともに、多様化するお客様ニーズを的確に把握し、お客さまの理解を深めることで満足度の向上を図ります。					
事業の概要	事業内容や経営状況を様々な媒体を活用し、積極的かつ効果的な情報提供に努め、下水道事業への理解を深めていただくための戦略的なPR活動を展開します。					
現状と課題	デザインマンホールやマンホールカードを活用したPR活動とともに、水環境教育冊子「ぐるぐる回る水のしくみ」（以下「教育冊子」という。）を効果的に活用するなど、将来を担う子供たちも含め市民に広く下水道事業の実情について理解を得るためのPR活動に努めています。 また、令和3（2021）年度からは、下水道事業をより身近に感じられる意識醸成を目的に、本局ホームページ上において、Webと映像を融合した特設サイト「あたりまえの、裏にあるもの」（以下「特設サイト」という。）を開設し、更なるPR活動を展開しています。併せて、持続可能な社会の実現（SDGs）等、社会情勢の変化に沿ったPR活動について検討を進めていく必要があります。					
事業計画	名称	説明	年度	2022	2023	2024
	広報・PR活動	マンホールカード、教育冊子等を活用したPR活動の推進				
	「特設サイト」を活用したPR活動	「特設サイト」を活用した下水道事業への意識醸成の推進				
	社会情勢の変化に沿ったPR活動の検討	持続可能な社会の実現（SDGs）等、社会情勢の変化に沿ったPR活動の検討				
業務指標	名称	目標値に対する取組状況等	目標値	7,000	7,000	7,000
	マンホールカード配布枚数（枚）	実績 ・風林火山ver 8,544枚 ・ナデシコver 2,362枚	実績	10,906	実績評価（担当）	T5
			2021年度末実績（参考）	6,247		
	名称	目標値に対する取組状況等	目標値	3,000	3,000	3,000
「教育小冊子」配布冊数（冊）	実績 ・小学校社会科見学 2,736冊 ・イベント（水道週間、甲府大好きまつり等） 435冊	実績	3,171	実績評価（担当）	T4	
		2021年度末実績（参考）	4,409			
事業費予算額（千円）				6,032		
事業費決算額（千円）				5,396		
事業評価（担当）					B	
取組状況及び今後の展開（担当）	「マンホールカード」や「教育小冊子」の配布及び令和3年度に開設した「特設サイト」を通して、下水道事業への理解促進に努めた。引き続き、これらのコンテンツを活用し、お客様に下水道事業を理解していただけるようPR活動に努めていく。					
事業評価（推進委員会）					B	
推進委員会の意見等	「マンホールカード」や「教育小冊子」等のコンテンツを活用し、下水道事業の理解度向上に努めること。引き続き、社会情勢の変化に沿ったPR活動について検討すること。					

業務指標評価 T5：目標達成率110%以上、T4：90%以上110%未満、T3：70%以上90%未満、T2：50%以上70%未満、T1：50%未満

事業評価 A：拡大、B：継続推進、C+：積極的見直し、C-：一部改善、D+：統廃合、D-：縮小、E：休止・廃止、F：完了

第5次戦略推進計画 進捗管理シート（最終）

下水道事業

事業番号31 情報共有、協働による相互理解を深めた事業運営（広報等）

対象：令和4（2022）年度

担当課	経営企画課		担当課長	小澤 昭洋		
経営方針	3 お客様満足度の高い下水道（信頼）		施策	(1) 親しみやすく、わかりやすい情報の提供		
目的	快適な生活環境を保持する下水道事業について、広く理解していただくため、お客様の下水道事業に対する意見等を事業運営に活かしていけるよう、情報発信・情報収集を行います。					
事業の概要	本局ホームページ（以下「ホームページ」という。）を活用し、広く分かりやすい情報発信を行います。また、お客様満足度調査やインターネットモニターを活用し、幅広いお客様からより多くの声を聞き、事業に活かせるような様々な媒体を通じて情報収集に努めます。更に、経営全般について第三者機関からの意見等をいただき、経営戦略の着実な推進を図ります。					
現状と課題	ホームページによる情報提供、お客様満足度調査、インターネットモニターの設置を実施しています。インターネットモニターについては、アンケートに加え、モニター調査対象者にメールマガジンを随時発信し、より効果的な情報提供を行っています。 また、第三者機関である「甲府市上下水道事業推進会議」を開催し、経営戦略の推進等に係る意見等をいただいています。 下水道事業に対する実感度は高いものの、過去のお客様満足度調査から、様々な取り組みに対する認知度が低い結果であったことから、その要因を分析し事業に関する多くの意見を拝聴する中で、認知度を上げる必要があります。					
事業計画	名称	説明	年度	2022	2023	2024
	ホームページ情報共有	ホームページを活用した情報共有の推進				
	インターネットモニター	アンケート調査、メールマガジン発信の実施				
	お客様満足度調査	下水道使用者へのアンケート調査				
	甲府市上下水道事業推進会議	経営戦略の推進等に係る意見等の聴取				
業務指標	名称	目標値に対する取組状況等	目標値	2	2	2
	インターネットモニターアンケート調査回数（回）	実績 実施回数：2回 モニター：47名 ・第1回 水道料金、下水道使用料、上下水道施設、広報について ・第2回 上下水道の利用、災害対策、水源保全、上下水道の課題について	実績	2	実績評価（担当）	T4
			2021年度末実績（参考）		2	
	名称	目標値に対する取組状況等	目標値	10	10	10
	インターネットモニターメールマガジン配信回数（回）	実績 メールマガジン配信回数：10回 ・4月～9月 水道週間、下水道の日等（4回） ・10月～3月 環境保全活動、オリジナルマンホール等（6回）	実績	10	実績評価（担当）	T4
			2021年度末実績（参考）		—	
	名称	目標値に対する取組状況等	目標値	4	—	3
	甲府市上下水道事業推進会議回数（回）	実績 甲府市上下水道事業推進会議 4回開催 ・第4回（令和4年7月28日） ・第5回（令和4年11月22日） ・第6回（令和5年2月15日） ・提言（令和5年3月14日）	実績	4	実績評価（担当）	T4
			2021年度末実績（参考）		3	
	名称	目標値に対する取組状況等	目標値	3.29	3.29	3.29
市民実感度調査結果（ポイント）※重要業務指標	実績 令和4（2022）年度未実施 ※令和元（2019）年度 市民実感度調査（市企画部）42施策中2位 質問内容：「公共下水道の整備などにより、生活排水が適正に処理されている」	実績	—	実績評価（担当）	—	
		2021年度末実績（参考）		—		
事業費予算額（千円）				1,573		
事業費決算額（千円）				1,513		
事業評価（担当）					B	
取組状況及び今後の展開（担当）	ホームページやメールマガジン等による情報発信及びインターネットモニターやお客様満足度調査による情報収集を行い、相互理解を図った。引き続き、情報発信及び情報収集を行い相互理解に努めていく。					
事業評価（推進委員会）					B	
推進委員会の意見等	引き続き、様々な媒体等を通して情報発信及び情報収集を行い、情報共有による相互理解を図ること。					

業務指標評価 T5：目標達成率110%以上、T4：90%以上110%未満、T3：70%以上90%未満、T2：50%以上70%未満、T1：50%未満

事業評価 A：拡大、B：継続推進、C+：積極的見直し、C-：一部改善、D+：統廃合、D-：縮小、E：休止・廃止、F：完了

第5次戦略推進計画 進捗管理シート（最終）

下水道事業

事業番号32 顧客満足度向上事業

対象：令和4（2022）年度

担当課	営業課		担当課長	長田 和平		
経営方針	3 お客様満足度の高い下水道（信頼）		施策	（2）お客様の利便性の向上		
目的	下水道使用料に関する各種手続きや支払方法等におけるお客様ニーズを的確に把握・反映するとともに、その利用の促進に努め、お客様満足度の向上を図ります。					
事業の概要	水道の手続き同様、インターネットを利用し、ホームページからの下水道使用開始及び中止の手続きや、下水道使用開始申込書・口座振替依頼書・クレジットカード払い申込書の請求手続きのPRを行います。また、新たな支払方法などの導入について検討します。					
現状と課題	口座振替やクレジットカード払いの申込書は、ホームページから請求できるようにしたことにより手続きの簡素化が図られています。また、支払方法の多様化からスマートフォンを利用したPayPayとLINE Payを導入しており、提供しているサービスのPRを行うとともに、更なるお客様満足度の向上を図っていきます。					
事業計画	名称	説明	年度	2022	2023	2024
	支払方法の検討	多様化する支払方法の導入について検討				
	インターネットによる手続きの促進	ホームページからの各種手続き等の利用者増加に向けたPR方法の検討				
業務指標	名称	目標値に対する取組状況等	目標値	4.45	4.45	4.45
	インターネット利用率（%）	実績	実績	6.94	実績評価（担当）	T5
			2021年度末実績（参考）	6.52		
事業費予算額（千円）				—		
事業費決算額（千円）				—		
事業評価（担当）					B	
取組状況及び今後の展開（担当）	これまでのオンライン手続きサービスに加えて、令和5年3月からインターネットによる転居手続き一括申込みサービス（引越れんらく帳）を導入し、オンラインによる手続き方法の多様化を図った。今後もオンライン手続きの利用促進を図るとともに、口座振替・クレジットカード支払い申込み手続きのオンライン化についても調査・研究を行っていく。					
事業評価（推進委員会）					B	
推進委員会の意見等	今後においても、現在提供しているサービスの検証を行うとともに各種手続きや支払方法に関するニーズを把握し、お客様の満足度向上に努めること。					

業務指標評価 T5：目標達成率110%以上、T4：90%以上110%未満、T3：70%以上90%未満、T2：50%以上70%未満、T1：50%未満

事業評価 A：拡大、B：継続推進、C+：積極的見直し、C-：一部改善、D+：統廃合、D-：縮小、E：休止・廃止、F：完了

第5次戦略推進計画 進捗管理シート（最終）

下水道事業

事業番号33 環境・エネルギー利活用事業（本局）

対象：令和4（2022）年度

担当課	総務課		担当課長	渡辺 洋司		
経営方針	4 環境に配慮した下水道（環境）		施策	（1）環境保全への貢献		
目的	太陽光発電の利用及び庁用自動車のガソリン使用量削減による環境負荷の軽減を図ります。					
事業の概要	本局庁舎屋上に設置された太陽光発電の活用や庁用電気自動車を活用し、温室効果ガスの削減に努めます。					
現状と課題	平成18（2006）年度に本局庁舎屋上に設置された太陽光発電を利用し、本局の庁舎の電力使用量の一部を賅うとともに、令和元（2019）年度に電気自動車2台を導入しました。 庁用自動車の更新においては、より環境負荷の軽減を図っていくため、運行状況や業務適性などを考慮する中で、クリーンエネルギー自動車の導入について検討するとともに、効果的に活用する必要があります。					
事業計画	名称	説明	年度	2022	2023	2024
	太陽光発電の活用	本局の庁舎で使用する電力の一部を賅うもの				
	庁用電気自動車の活用	庁用電気自動車の効果的な活用				
業務指標	名称	目標値に対する取組状況等	目標値	7.64	7.64	7.64
	CO2削減量（t）	実績	実績	6.77	実績評価（担当）	T3
			2021年度末実績（参考）	6.82		
事業費予算額（千円）				266		
事業費決算額（千円）				266		
事業評価（担当）					B	
取組状況及び今後の展開（担当）		太陽光発電や庁用電気自動車を活用することにより、環境負荷の軽減に努める。				
事業評価（推進委員会）					B	
推進委員会の意見等		太陽光発電施設や電気自動車を引き続き活用し、環境負荷の軽減に努めること。				

業務指標評価 T5：目標達成率110%以上、T4：90%以上110%未満、T3：70%以上90%未満、T2：50%以上70%未満、T1：50%未満

事業評価 A：拡大、B：継続推進、C+：積極的見直し、C-：一部改善、D+：統廃合、D-：縮小、E：休止・廃止、F：完了

第5次戦略推進計画 進捗管理シート（最終）

下水道事業

事業番号34 環境・エネルギー利活用事業（浄化センター）

対象：令和4（2022）年度

担当課	計画課・浄化センター		担当課長	照沼 昇・石川 泰明		
経営方針	4 環境に配慮した下水道（環境）		施策	(1) 環境保全への貢献		
目的	地球温暖化防止や廃棄物削減など環境負荷の軽減を図ります。					
事業の概要	「甲府市上下水道事業環境・エネルギー利活用計画（甲府市下水道再生可能エネルギー利活用計画）」及び施設の更新に合わせた省エネルギー型設備の導入等によるエネルギーの削減に取り組みます。また、汚泥焼却炉の運転に必要な燃料に重油に替わる木質系燃料を可能な限り使用することで、温室効果ガスの削減に取り組みます。更に、汚泥のリサイクル及び処理水等の有効活用による環境負荷の軽減に取り組みます。					
現状と課題	省エネルギーの推進、温室効果ガスの削減及び資源の有効活用を進めており、引き続き環境負荷の軽減に取り組む必要があります。					
事業計画	名称	説明	年度	2022	2023	2024
	省エネルギー設備等の導入	施設の更新に合わせた省エネルギー設備等の検討				
	木質系燃料の使用	汚泥焼却炉の運転に係わる木質系燃料の使用				
	汚泥焼却灰及び処理水等の有効活用	汚泥焼却灰及び処理水等の有効活用				
業務指標	名称	目標値に対する取組状況等	目標値	11,159	11,159	11,159
	処理場・ポンプ場施設の年間電力使用量（千kWh）※重要業務指標	実績	汚水ポンプのインバータ化や運転管理受託事業者との電力削減の取組などにより電力使用量の削減した。	実績	10,976	実績評価（担当） T4
				2021年度末実績（参考）	11,142	
	名称	目標値に対する取組状況等	目標値	60	60	60
	代替エネルギー転換率（%）	実績	脱水汚泥の性状に合わせた効率的で適切な運転管理に努め、代替エネルギーへの転換を行った。	実績	48.2	実績評価（担当） T3
				2021年度末実績（参考）	71.6	
	名称	目標値に対する取組状況等	目標値	100	100	100
下水汚泥リサイクル率（%）	実績	下水汚泥は、焼却処分及びセメント原料として全て処分をした。また、焼却灰についても、セメント原料として民間再資源化を図った。	実績	100	実績評価（担当） T4	
			2021年度末実績（参考）	100		
事業費予算額（千円）				-		
事業費決算額（千円）				-		
事業評価（担当）					B	
取組状況及び今後の展開（担当）	効率的で適切な運転管理や代替エネルギーへの転換に努めるとともに、下水汚泥の焼却処分及びセメント原料として再資源化を図った。今後も、引き続き環境負荷軽減に努める。					
事業評価（推進委員会）					B	
推進委員会の意見等	今後も、継続してエネルギー削減や温室効果ガスの削減など環境負荷の軽減を図ること。					

業務指標評価 T5：目標達成率110%以上、T4：90%以上110%未満、T3：70%以上90%未満、T2：50%以上70%未満、T1：50%未満

事業評価 A：拡大、B：継続推進、C+：積極的見直し、C-：一部改善、D+：統合廃止、D-：縮小、E：休止・廃止、F：完了

甲府市上下水道事業経営戦略(下水道事業)重要業務指標(KPI 10項目)実績評価一覧表 令和4(2022)年度 3月末

経営方針	施策	KPI	説明	平成28 (2016) 年度	平成30 (2018) 年度	令和2 (2020) 年度	令和3 (2021) 年度	令和4 (2022) 年度 目標値	中間評価	令和4 (2022) 年度 目標値	備考
				実績値	実績値	実績値	実績値	中間値		実績値	
				基準値	初年度	参考	参考	実績見込値		見込値評価	
1 災害に強く快適な下水道(安全・強靱)	(1) 危機管理対策の強化	災害対策訓練実施回数(回)	自然災害等に対する危機対応性を表す指標(多いほどよい)	4	5	5	6	5 3 8	順調 T5	5 7 T5	○全課(業務総室 総務課) 第5次計画 事業No.1
	(2) 管路・施設の耐震化の推進	処理場・ポンプ場施設の耐震化率(%)	地震に対しての施設の安全性及び維持管理の安定性を表す指標(高いほどよい)	25.40	25.40	29.89	33.33	36.78 33.33 36.78	順調 T4	36.78 41.38 T4	○下水道管理室 浄化センター 第5次計画 事業No.5
	(3) 汚水管きよの整備	人口に対する普及率(%)	下水道事業の進捗状況を表す指標(高いほどよい)	95.75	96.35	96.92	96.96	96.82 97.01 97.04	順調 T4	96.82 97.04 T4	○工務総室 計画課 第5次計画 事業No.7
	(4) 公共用水域の水質保全の推進	公共下水道の水洗化率(%)	公共下水道が利用可能な方々のうち、公共下水道に接続したお客様の割合を表す指標(高いほどよい)	98.63	98.15	98.74	98.88	98.93 98.99 99.07	順調 T4	98.93 99.04 T4	○工務総室 計画課 総合計画 施策成果指標
2 将来に繋げる下水道(持続)	(1) 経営基盤の強化	経常収支比率(%)	経常費用が経常収益によってどこまで賅われているかを示す指標(100%以上であることが必要)	120.40	120.60	123.17	124.87	100.00以上 124.04 124.04	順調 T4	100.00以上 124.12 T4	○業務総室 経営企画課 経営分析指標
	(2) 効果的な改築	管きよ改善率(%)	管きよの安全性の確保のため、維持管理延長のうち、1年間で改善(更新・改良・修繕)された管きよ延長の比率(高いほどよい)	0.25	0.39	0.06	0.22	0.28 0.02 0.20	遅延 T3	0.28 0.17 T2	○下水道管理室 下水道課
	(3) 有収率の向上	有収率(%)	排水施設を通して排除される下水量がどの程度収益につながっているかを表す指標(高いほどよい)	56.26	56.91	55.50	66.53	58.30 62.17 63.67	順調 T4	58.30 65.94 T4	○下水道管理室 下水道課
	(4) 技術・経営ノウハウの継承	研修時間(時間)	職員の資質向上のための取組状況を表す指標(高いほどよい)	22.88	23.74	13.32	21.25	25.10 15.46 25.51	順調 T4	25.10 29.02 T5	○業務総室 総務課 第5次計画 事業No.29
3 お客様満足度(信頼)	(1) 親しみやすく、わかりやすい情報提供	生活排水の適正処理についての市民実感度(ポイント)	甲府市が実施する市民実感度調査の実感度(ポイントが高いほど満足度が高い、最高4ポイント)	3.26	3.25	—	—	3.29	—	3.29	○業務総室 経営企画課 第5次計画 事業No.31 4年連続42項目中第2位 質問内容「公共下水道の整備などにより、生活排水が適切に処理されている。」 令和2(2020)年度より未実施(企画財務部)
	(2) お客様の利便性の向上	—						—	—		
4 下水道に配慮した	(1) 環境保全への貢献	処理場・ポンプ場施設の年間電力使用量(kwh)	省エネルギー対策への取り組み度合いを表す指標(低いほどよい)	11,625	11,169	11,363	11,142	11,159 5,421 11,077	順調 T4	11,159 10,976 T4	○下水道管理室 浄化センター 第5次計画 事業No.34

指標実績評価 T5: 目標達成率110%以上、T4: 90%以上110%未満、T3: 70%以上90%未満、T2: 50%以上70%未満、T1: 50%未満

第5次戦略推進計画(下水道事業) 予算・決算増減比較表

○収益的収支(汚水や雨水を処理し、水を再生するための経費と財源)

(税抜/単位: 百万円)

年度等 区分		2022(令和4)年度					増減理由等
		当初予算額	補正額等	最終予算額	決算額	増減 (決算-予算)	
収益的 収入	1 営業収益	3,772	1	3,773	3,911	138	<ul style="list-style-type: none"> ・下水道使用料収入の増加 ・処理場施設等の動力費増加に伴う他会計補助金の補正 ・減価償却費及び資産減耗費の減に伴う長期前受金戻入の減少
	(1) 使用料	3,016	0	3,016	3,154	138	
	(2) 受託工事収益	0	0	0	0	0	
	(3) その他	756	1	757	757	0	
	2 営業外収益	3,417	21	3,438	3,389	△49	
	(1) 補助金	1,456	21	1,477	1,475	△2	
	他会計補助金	1,456	21	1,477	1,475	△2	
	その他補助金	0	0	0	0	0	
	(2) 長期前受金戻入	1,959	0	1,959	1,910	△49	
	(3) その他	2	0	2	4	2	
収入計(A)		7,189	22	7,211	7,300	89	

(税抜/単位: 百万円)

年度等 区分		2022(令和4)年度					増減理由等
		当初予算額	補正額等	最終予算額	決算額	不用額 (予算-決算)	
収益的 支出	1 営業費用	5,454	55	5,509	5,340	169	<ul style="list-style-type: none"> ・管渠施設の維持管理に関わる修繕工事等の費用の減少 ・処理場施設等の動力費の増加に伴う補正 ・処理場施設等の維持管理に関わる委託料等の費用の減少 ・水道事業等への負担金の減少 ・減価償却費及び資産減耗費の減少 ・支払利息額の減少
	(1) 職員給与費	345	0	345	311	34	
	基本給	145	0	145	128	17	
	退職給付費	42	0	42	42	0	
	その他	158	0	158	141	17	
	(2) 経費	1,223	55	1,278	1,216	62	
	動力費	251	55	306	294	12	
	修繕費	53	0	53	45	8	
	材料費	29	0	29	24	5	
	その他	890	0	890	853	37	
	(3) 減価償却費	3,886	0	3,886	3,813	73	
	2 営業外費用	563	0	563	541	22	
	(1) 支払利息	545	0	545	523	22	
(2) その他	18	0	18	18	0		
支出計(B)		6,017	55	6,072	5,881	191	

経常損益(A)-(B)(C)	1,172	△33	1,139	1,419	280
----------------	-------	-----	-------	-------	-----

特別利益(D)	22	0	22	23	1
特別損失(E)	8	0	8	5	△3
特別損益(D)-(E)(F)	14	0	14	18	4
当年度純利益(又は純損失)(C)+(F)	1,186	△33	1,153	1,437	284

第5次戦略推進計画(下水道事業) 予算・決算増減比較表

○資本的収支(下水道施設を建設・改良するための経費と財源)

(税込/単位:百万円)

区 分		2022(令和4)年度					増減理由等
		当初予算額	補正額等	最終予算額	決算額	増減 (決算-予算)	
資本的 収入	1 企業債	2,348	441	2,789	1,528	△ 1,261	<ul style="list-style-type: none"> • 下水道事業に係る企業債借入額の減少 • 国庫補助金、他企業等からの工事負担金収入の減少
	うち資本費平準化債	0	0	0	0	0	
	2 他会計出資金	0	0	0	0	0	
	3 他会計補助金	874	0	874	874	0	
	4 他会計負担金	0	0	0	0	0	
	5 他会計借入金	0	0	0	0	0	
	6 国(都道府県)補助金	914	217	1,131	534	△ 597	
	7 固定資産売却代金	0	0	0	0	0	
	8 工事負担金	251	126	377	173	△ 204	
	9 その他	3	0	3	2	△ 1	
計 (A)	4,390	784	5,174	3,111	△ 2,063		
(A)のうち翌年度へ繰り越される支出の財源充当額 (B)	0	0	784	0	—		
純計 (A)-(B) (C)	4,390	784	4,390	3,111	—		

(税込/単位:百万円)

区 分		2022(令和4)年度					増減理由等	
		当初予算額	補正額等	最終予算額	決算額	翌年度繰越額		不用額
資本的 支出	1 建設改良費	3,178	880	4,058	1,957	1,925	176	<ul style="list-style-type: none"> • 管渠施設の更新(建設)工事、委託業務等に係る費用の減少
	うち職員給与費	156	0	156	126	0	30	
	2 企業債償還金	4,219	0	4,219	4,218	0	1	
	3 他会計長期借入返還金	23	0	23	23	0	0	
	4 他会計への支出金	0	0	0	0	0	0	
	5 その他	7	0	7	0	0	7	
計 (D)	7,427	880	8,307	6,198	1,925	184		

資本的収入額が資本的支出額に不足する額 (D)-(A) (E)	3,037	96	3,133	3,087
補填財源				
1 損益勘定留保資金	1,542	△ 14	1,528	1,508
2 利益剰余金処分量	1,407	110	1,517	1,517
3 繰越工事資金	0	0	0	0
4 その他	88	0	88	62
計 (F)	3,037	96	3,133	3,087
補填財源不足額 (E)-(F)	0	0	0	0

他会計借入金残高	0	0	0	0
企業債残高	35,932	-	-	34,801

○他会計繰入金

区 分		2022(令和4)年度				
		当初予算額	補正額等	最終予算額	決算額	増減 (決算-予算)
収益的収支分		2,206	22	2,228	2,226	△ 2
	うち基準内繰入金	2,206	△ 94	2,112	2,110	△ 2
	うち基準外繰入金	0	116	116	116	0
資本的収支分		874	0	874	874	0
	うち基準内繰入金	874	△ 123	751	751	0
	うち基準外繰入金	0	123	123	123	0
合計		3,080	22	3,102	3,100	△ 2